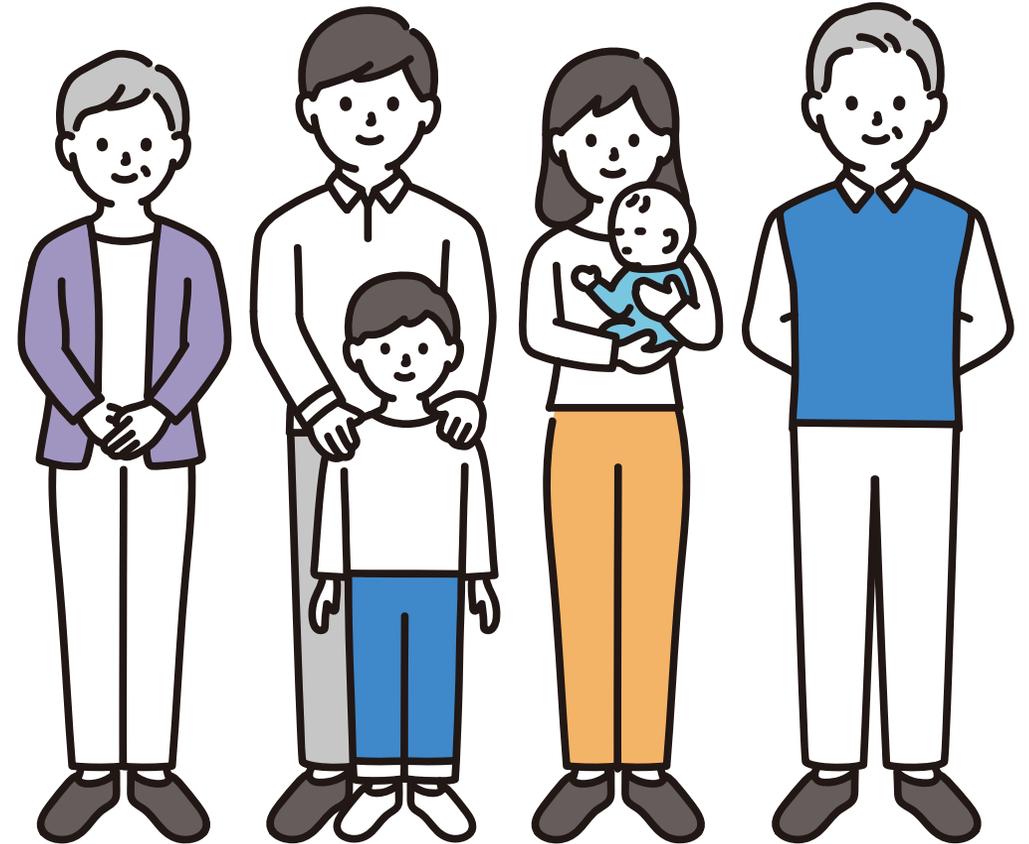


# 卒論最終発表

居住形態の属性分析と  
三世代生活が親世代に  
与える影響の実証分析

17期 清原 竹備



## 居住形態の属性分析と 三世代生活が親世代に与える影響の実証分析

世帯構成や居住スタイル  
の属性・要因分析

三世代で生活することによ  
る、親世代の生活面（生活  
満足度や健康意識など）へ  
の効果に関する分析

三世代で生活することによ  
る、親世代の仕事面（ワー  
クエンゲージメント・仕事  
満足度）への効果に関する  
分析

# アジェンダ

1

背景・問題意識

2

先行研究

3

分析アプローチ

4

予備的分析・推計

5

おわりに

# アジェンダ

1

背景・問題意識

2

先行研究

3

分析アプローチ

4

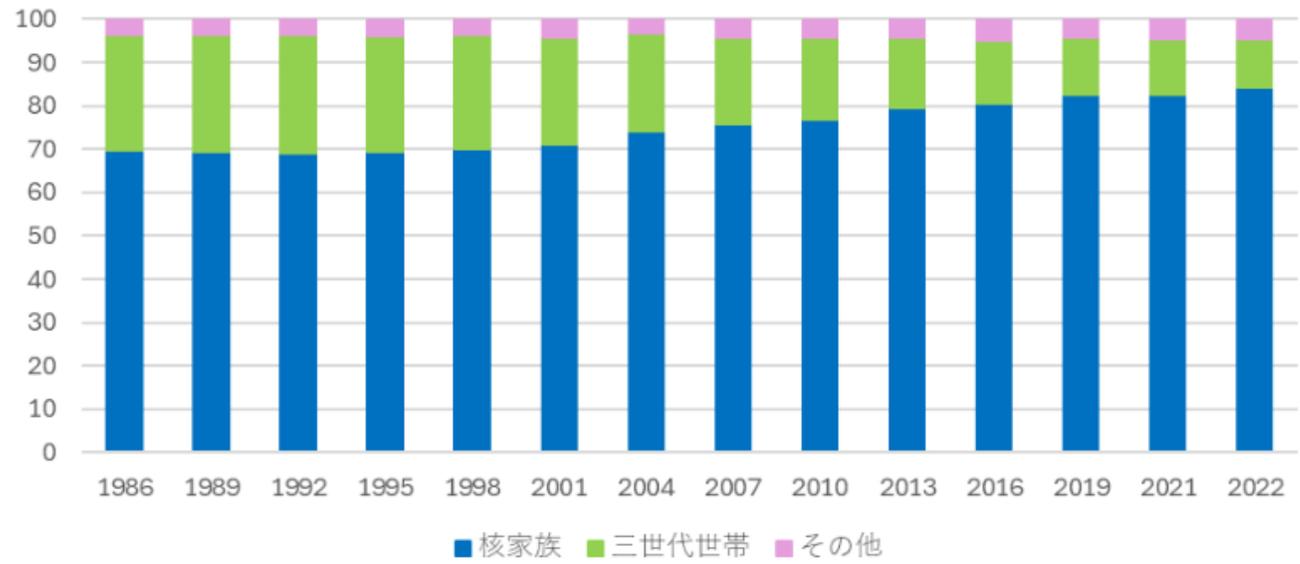
予備的分析・推計

5

おわりに

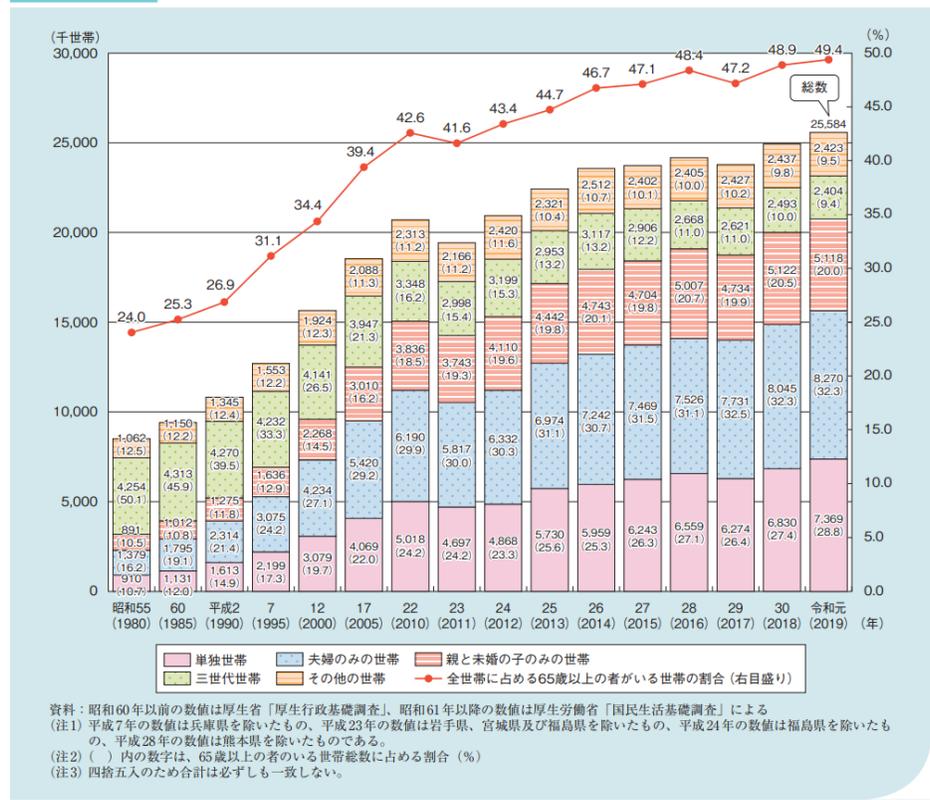
# 世帯構造の推移

世帯構造の推移



厚生労働省「国民生活基礎調査」(2022)より作成

図1-1-8 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合(世帯構造別)と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合

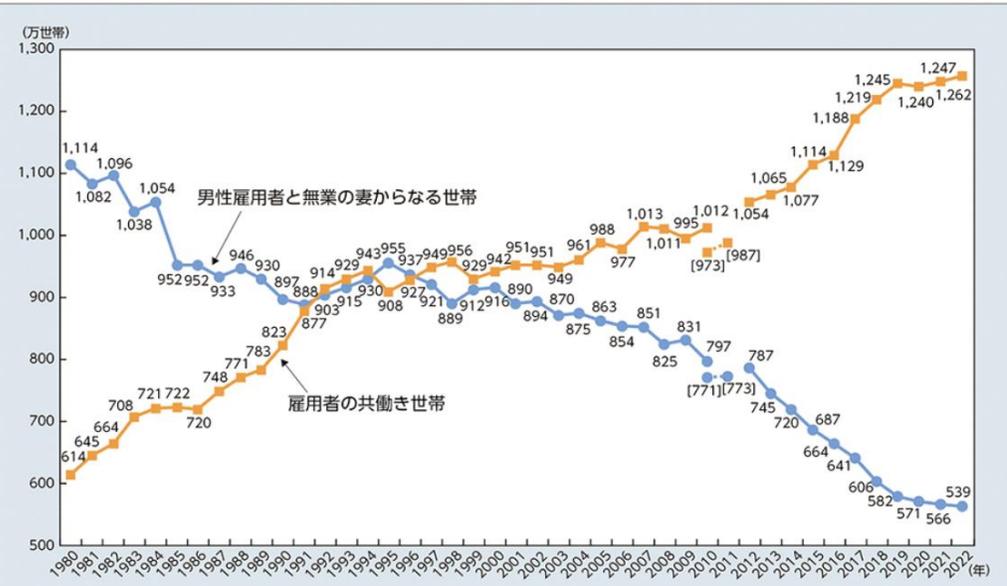


内閣府 令和3年版高齢社会白書

## 核家族が増える一方で三世代世帯は減ってきている

# 女性の就業の推移①

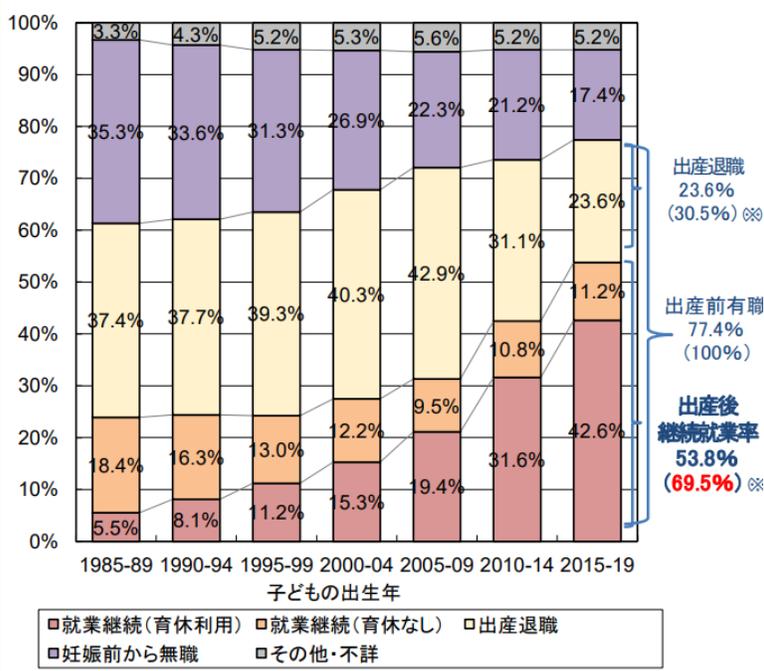
図表 1-1-3 共働き等世帯数の年次推移



厚生労働省『令和3年版 労働経済白書』

・ 共働き夫婦は年々増加

第1子出生年別にみた、第1子出産前後の妻の就業変化

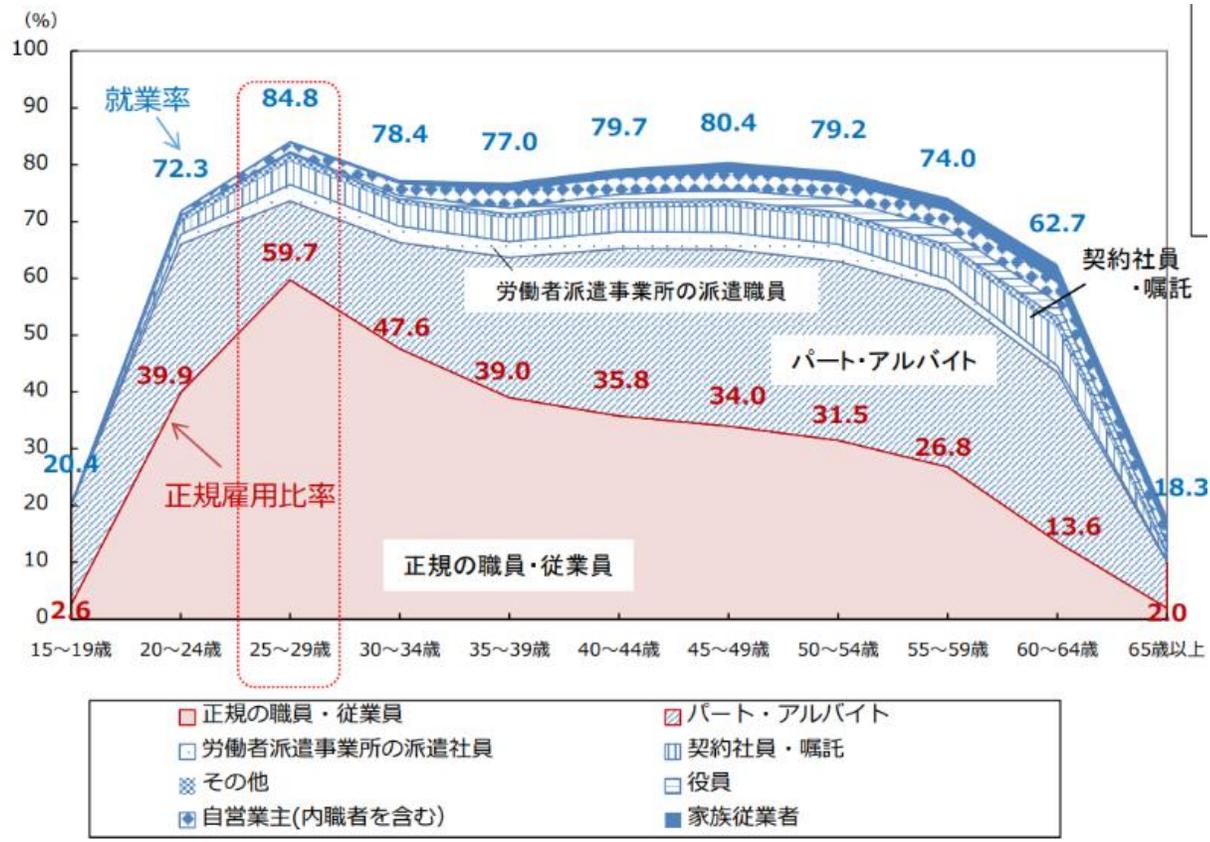


(※) ( )内は出産前有職者を100として、出産後の継続就業者の割合を算出  
 (注1) 就業変化は、妻の妊娠判明時と子ども1歳時の従業上の地位の変化をみたもの。  
 (注2) 上記グラフは、対象期間(例:2010~2014)中に出産した女性の就業変化を表している。

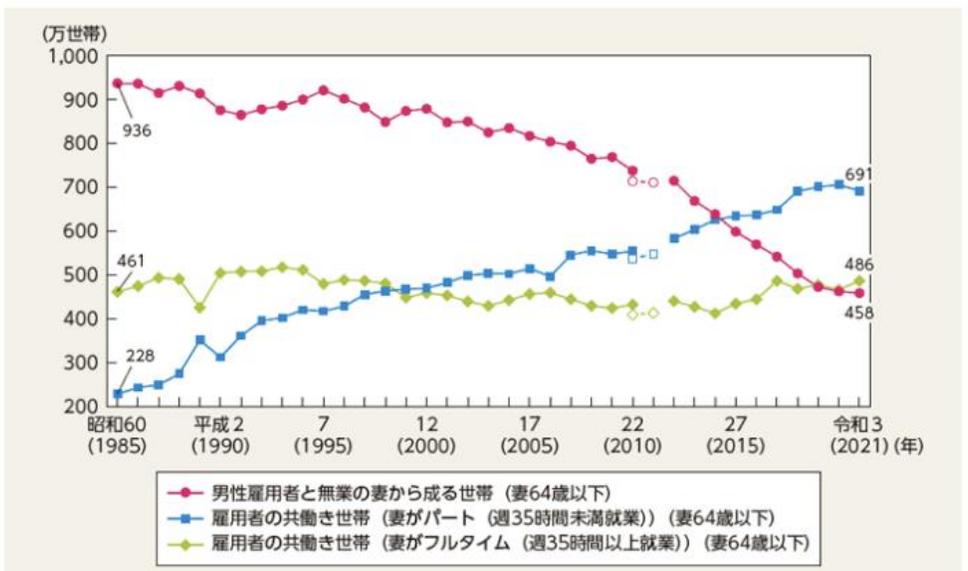
- ・ 女性の産後の就業継続率は約7割
- ・ 出産を理由に退職する人も3割と一定数存在する

厚生労働省『今後の仕事と育児・介護の両立支援に関する研究会(第1回)』

# 女性の就業の推移②

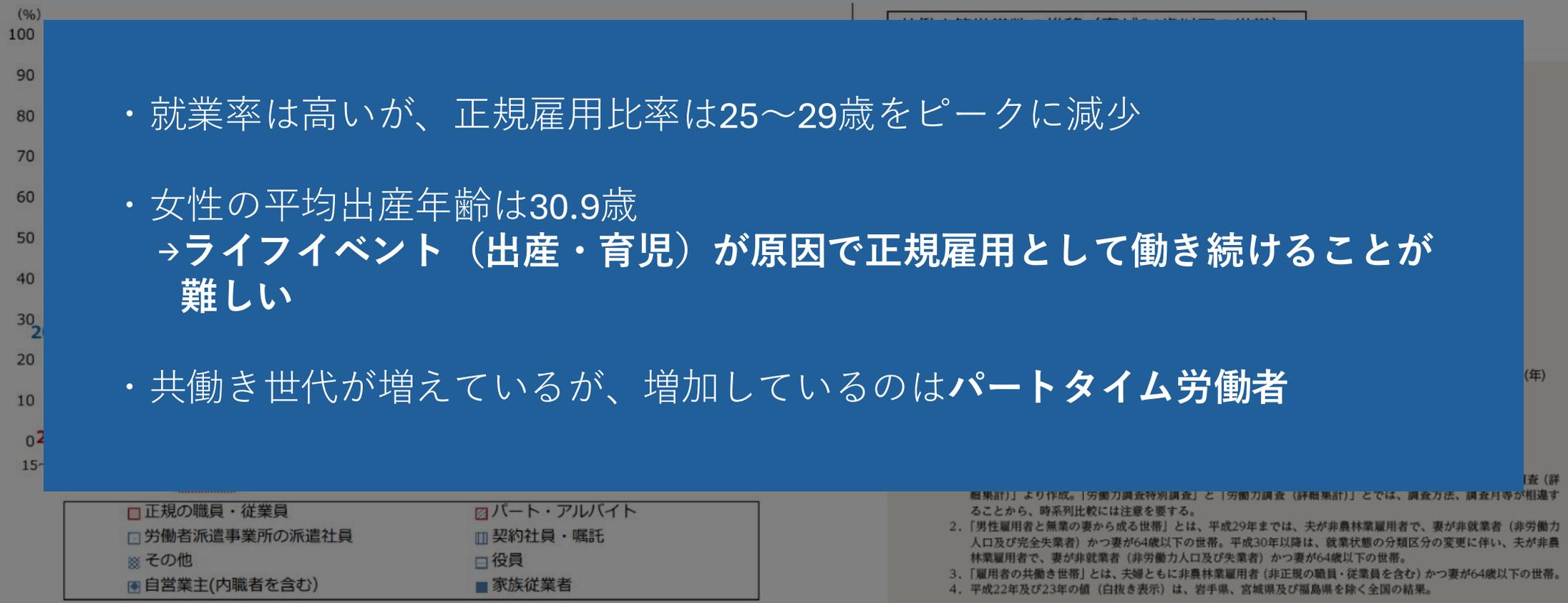


共働き等世帯数の推移（妻が64歳以下の世帯）



(備考) 1. 昭和60年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月)、平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。  
 2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、平成29年までは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)かつ妻が64歳以下の世帯。平成30年以降は、就業状態の分類区分の変更に伴い、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び失業者)かつ妻が64歳以下の世帯。  
 3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む)かつ妻が64歳以下の世帯。  
 4. 平成22年及び23年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

# 女性の就業の推移②



- ・ 就業率は高いが、正規雇用比率は25～29歳をピークに減少
- ・ 女性の平均出産年齢は30.9歳  
→ ライフイベント（出産・育児）が原因で正規雇用として働き続けることが難しい
- ・ 共働き世代が増えているが、増加しているのはパートタイム労働者

【注】「労働力調査（詳細集計）」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査（詳細集計）」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。

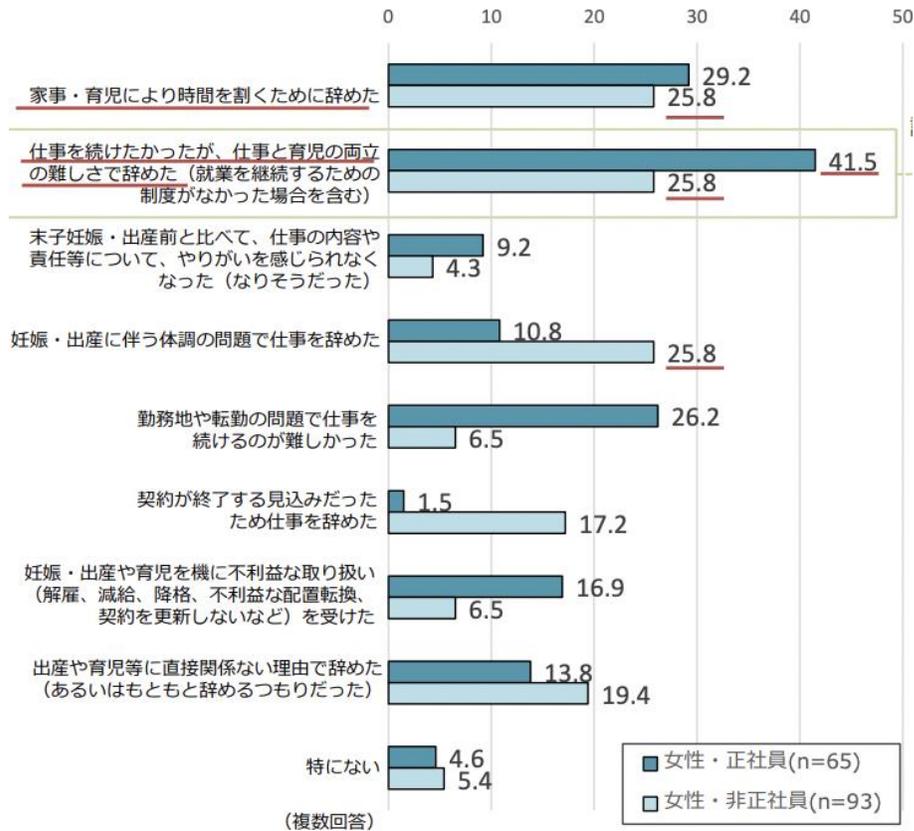
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、平成29年までは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者（非労働力人口及び完全失業者）かつ妻が64歳以下の世帯。平成30年以降は、就業状態の分類区分の変更に伴い、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者（非労働力人口及び失業者）かつ妻が64歳以下の世帯。

3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者（非正規の職員・従業員を含む）かつ妻が64歳以下の世帯。

4. 平成22年及び23年の値（白抜き表示）は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

# 女性の就業の推移③

## 妊娠・出産を機に退職した理由



仕事と育児の両立は依然として困難

厚生労働省『今後の仕事と育児・介護の両立支援に関する研究会 (第1回)』 (2023)

# 女性の正規雇用継続のために



①職場環境の改善



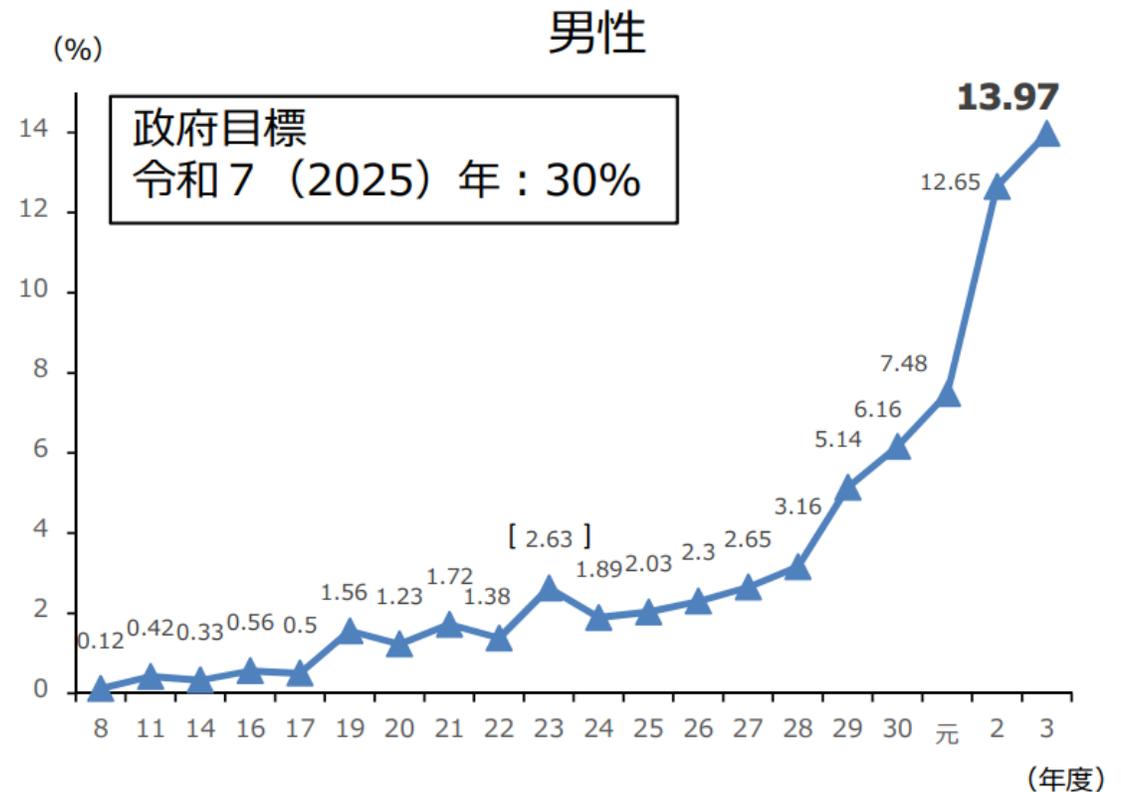
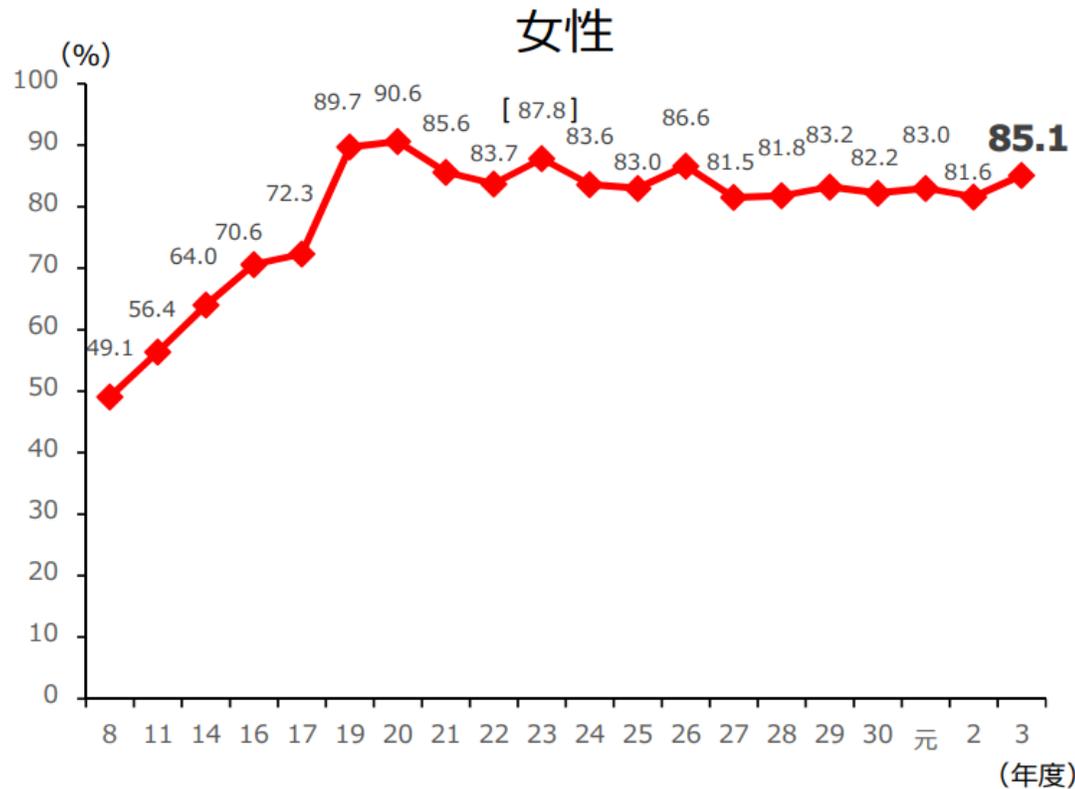
②公的支援の向上



③三世代での暮らし

# ①職場環境の改善

## 育児休業取得率の推移



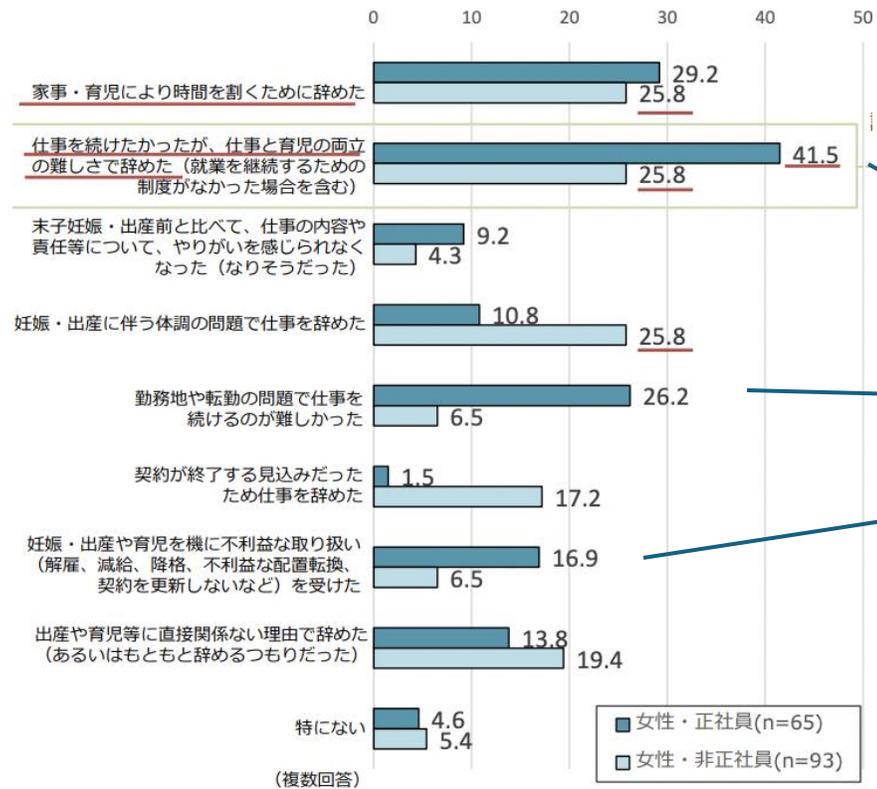
『育児・介護休業法の改正について』厚生労働省 雇用環境・均等局 職業生活両立課

**女性の育児休業率は8割以上だが、男性は2割未満**

# ①職場環境の改善

【再掲（○ページ）】

妊娠・出産を機に退職した理由



職場環境が原因で退職している人もいる。

厚生労働省『今後の仕事と育児・介護の両立支援に関する研究会（第1回）』（2023）

# ②公的支援の向上

## 保育所等数は増加している



こども家庭庁『保育所等関連状況取りまとめ（令和5年4月1日）』

三世代世帯から核家族への移行  
 = インフォーマルケアから  
 フォーマルケアへの  
 クラウドイングアウト

認可保育所の利用しやすさ向上

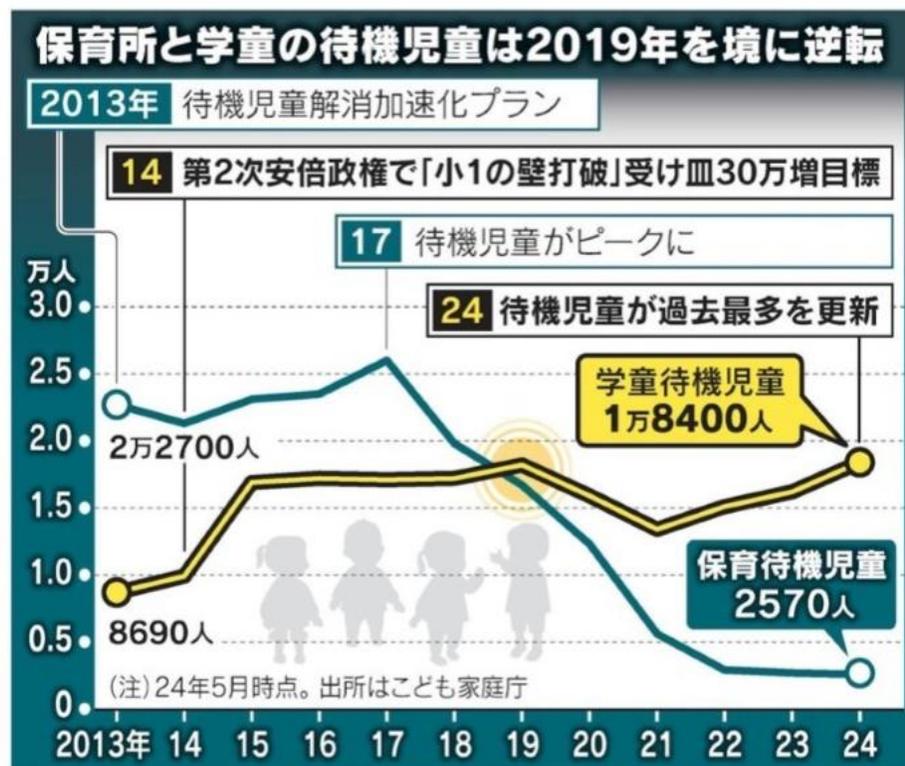


母親の就業率が増加

西立野、四方(2017)

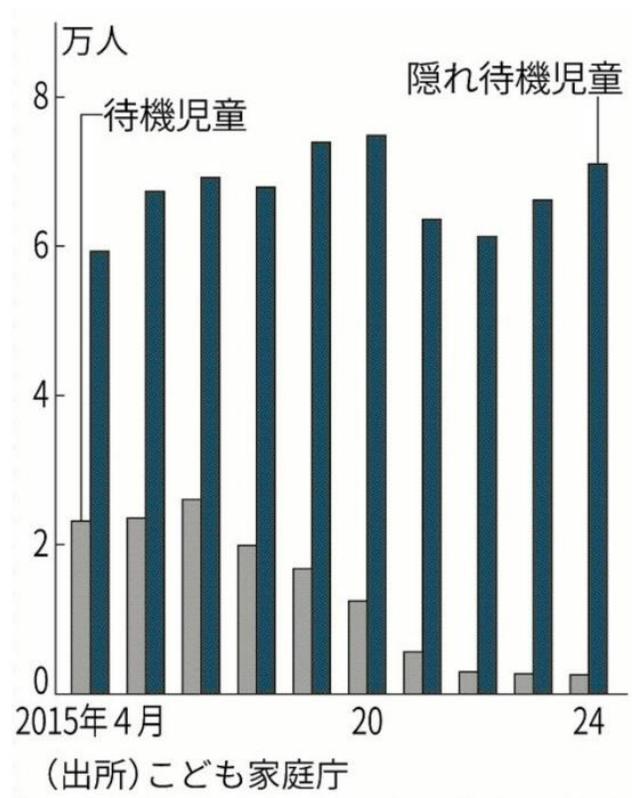
## ②公的支援の向上

- ・ 保育待機児童は解消されたが、**学童待機児童は増加**している



日本経済新聞 (2024年9月22日)

- ・ **隠れ待機児童**は依然として高止まり



日本経済新聞 (2024年8月31日)

**【隠れ待機児童】**  
 自宅近くなど特定の保育所を希望するといった理由で保育所に入所できない場合  
 待機児童数に含まれない

## ②公的支援の向上

幼児教育・保育の無償化が  
令和元年10月からスタート

### 【対象】

- 幼稚園、保育所、認定こども園等を利用する3~5歳のすべてのこどもの利用料
- 住民税非課税世帯の0~2歳のこども

しかし、  
**延長保育や土曜保育の利用料は無償化対象外**

### 〈土曜保育〉

週によって開園状況が異なり、利用希望日の数日前や1週間前までに申請が必要な場合が多い。  
また、毎月〇日までに申請用紙を提出するというルールがある保育園も多い。



**急遽仕事が入ってしまった場合に預けられないということが起こりうる。**

## ②公的支援の向上

幼児教育・保育の無償化が  
令和

〈土曜保育〉

保育所等の数が増加し、保育待機児童の問題が解消されたことに加え、  
幼児教育・保育の無償化によって、  
母親は就業を継続しやすい環境になっている

しかし、  
学童待機児童や隠れ待機児童の存在や  
無償化対象外の保育サービス、土曜保育の柔軟性の低さに課題がある。

しかし、  
延長保育や土曜保育の利用料は  
無償化対象外

急遽仕事が入ってしまった場合に  
預けられないということが起こりうる。

# 女性の正規雇用継続のために

近年、職場環境が改善されたり、  
公的支援が向上したことによって、  
女性は正規雇用を継続しやすくなっている。

しかし、依然として、  
職場環境の差や公的支援の限定性により、  
カバーできていないところもある。



**三世代での暮らしが、  
それらをカバーできるのではないか。**

## ③三世代での暮らし

○西本ら（2004）

母親との同居は、その母親が就業しているかどうかに関わらず  
妻のフルタイム・パートタイム就業を促進させる。

○福田ら（2012）

夫方の母親は妻の非正規就業率の確立を高める一方、  
妻方の親は特に子どもの年齢が低い場合に正規就業の確率を高める。

○佐々木（2022）

効果は小さいながらも三世代同居が妻の雇用を促進する効果が認められた。

# 三世代で暮らすことのメリット

## 孫世代

### ○兪崢（2015）

- ・ 三世代世帯の子どもの方が**認知能力も非認知能力も高い**傾向にある。  
特に**非認知能力**に関して、  
祖父母には親からは与えられない効果がある。
- ・ 時間、財ともに**教育投資が高い**。

※認知能力...理解・判断・論理などの知的能力  
非認知能力...知能以外の特性・選好

# 三世代で暮らすことのメリット

## 祖父母世代

### 1. 老化予防

要支援以上の要介護認定になりやすい高齢者の特徴

- ・鬱状態などの心身の健康
- ・歩行時間30分未満
- ・外出頻度が少ない
- ・友人と会う頻度が月1回未満
- ・地域の会への参加がない
- ・家事をしていない
- ⋮

平井ほか (2009)

### 【フレイル】

加齢により心身が老い衰えた状態  
健康な状態と要介護状態の中間の段階

フレイルになりやすい高齢者の特徴

- ・4年前にメンタルヘルスの悪い人
- ・低所得で経済的に不安定である人
- ・10年前に運動習慣のない人

⋮

また、10年前の食事習慣が良好であるほど、フレイルになりにくい

高崎 (2023)

オーラルフレイル＝口の機能が健常な状態と口の機能低下との間にある状態

高齢期に生じる複数の課題（話す頻度の減少や柔らかいものを食べることなど）が重複して生じる口の衰え  
オーラルフレイルであると、将来のフレイル、要介護認定、死亡のリスクが高い。

日本老年歯科医学会 (2024)

# 三世代で暮らすことのメリット

## 祖父母世代

### 1. 老化予防

#### 要支援以

- ・鬱状態
- ・歩行困難
- ・外出頻度減少
- ・友人との交流減少
- ・地域の活動参加減少
- ・家事負担増加

#### 【フレイル】

加齢により心身が老い衰えた状態  
健康な状態と要介護状態の中間の段階

三世代で生活することで、  
人との交流や家事、運動、外出、所得などといった面で、  
老化の予防につながると考えられる。

等 (2009)

オーラルフレイル=口の機能が健常な状態と口の機能低下との間にある状態

高齢期に生じる複数の課題（話す頻度の減少や柔らかいものを食べることなど）が重複して生じる口の衰え  
オーラルフレイルであると、将来のフレイル、要介護認定、死亡のリスクが高い。

日本老年歯科医学会 (2024)

# 三世代で暮らすことのメリット

## 祖父母世代

### 2. 主観的幸福度の向上

#### ○中村ら（2007）

- ・孫に対する情緒的な感情が高齢者の主観的幸福度を高める
- ・孫のいる高齢者の方が孫のいない高齢者に比べて健康度自己評価（主観的健康観）が高い

#### ○宮田ら（2013）

- ・孫の存在がもたらす生きがいのある充実した生活の質の向上が、精神的な満足感を高め、ポジティブな感性を育む

#### ○内田ら（2015）

- ・『自分の余生を振り返らせる度合』『孫とのふれあいの度合』『日常の中でも相互の関心度合』が祖父母の精神的健康度に良い影響をもたらす

# 三世代で暮らすことのメリット

## 祖父母世代

主観的幸福感の向上

○中

- ・
- ・

が高い

多くの祖父母にとって、孫は生きがいの1つとなっており、孫の存在は祖父母の主観的幸福感や健康度を高める。

○宮

- ・

を高め、

○内田ら（2015）

- ・ 『自分の余生を振り返らせる度合』 『孫とのふれあいの度合』 『日常の中でも相互の関心度合』 が祖父母の精神的健康度に良い影響をもたらす

# 三世代で暮らすことのメリット・デメリット

## 親世代

### 就業

○西本ら（2004）

同居している祖父母世代に家事や育児を代替してもらえることから  
妻の就業を促進する効果



祖父母世代の介護や看護が妻の負担となり、妻の就業を抑制する効果

# 三世代で暮らすことのメリット・デメリット

## 親世代

### 就業

○福田ら（2012）

妻の母親が近くに住んでいると、妻の正規雇用が促進される

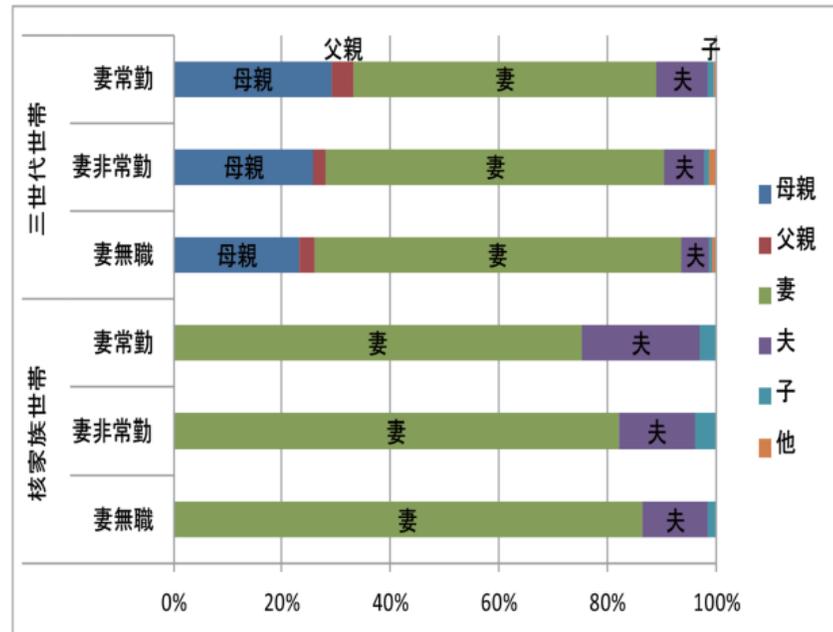


夫の母親の同居・近居は同様の効果を与えない

# 三世代で暮らすことのメリット・デメリット

## 親世代

図7 女性の就業形態別家事分担状況



出典：不破（2014）

世帯構造や妻の就業形態に関わらず、**妻が最も多く家事を負担している**

# 研究内容

## <問題意識>

- ・三世代での暮らしがどのような目的で選択されているのか（介護が目的か否かなど）を考慮した研究が非常に少ない。

→研究①

- ・三世代世帯による親世代のメリットについての研究は、**就業状況が中心**であり、他の効果についての研究が非常に少ない。

（就業面においても、祖父母が父方か母方か、同居か近居かで効果が異なる）

- ・三世代世帯においても、**妻に家事の負担が偏っている**。

→研究②・研究③



先行研究で明らかになっていない、親世代へのメリットを明らかにすることで、三世代生活を推進する意義を強める一助としたい。

# 研究内容



研究① 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析



研究② 三世代で生活することによる、親世代の生活面（生活満足度や健康意識など）への効果に関する分析



研究③ 三世代で生活することによる、親世代の仕事面（仕事のパフォーマンス・スキル向上）への効果に関する分析

# 独自性

## ① JHPSのデータを利用することによって、以下の項目について細分化できる点

- 同居する祖父母が父方か母方か
- 同居・準同居・近居を区別
- 介護が必要な家庭か否か
- 親の職種や働き方
- 親の家事・育児を含む生活時間
- 祖父母からの経済的援助の金額

### 〈研究の意義〉

- ・先行研究では十分に考慮されていない詳細な家庭環境に着目することでより精密な分析を行う。
- ・介護が必要な場合とそうでない場合での生活の差を明らかにすることができる。  
その結果から三世代世帯に対する介護支援制度の強化の必要性を考えたい。
- ・働き方の変化が三世代での生活にもたらす効果ついて明らかにすることができる。
- ・同居よりも近居の方が女性の就労率を上げるという先行研究、完結出生児数を上げるというデータがあるが、他にも近居のメリットを挙げることで、同居に加えて近居の支援や政策にも強化すべきだと言える。

# 独自性

## ② パネルデータを使用することで世帯構造の変化による効果に着目することができる点

〈研究の意義〉

パネルデータによって同一世帯を追跡調査することが可能であり、アウトカムの変化の要因を明らかにすることができる。

## ③ 親世代の生活面・仕事面における変化に着目する点

〈研究の意義〉

先行研究では祖父母世代や孫世代のメリット、母親の就業に関する研究が多かったため、親世代へのその他のメリットについての研究を重ねることで、三世代生活推進の一助となると考える。

# アジェンダ

1

背景・問題意識

2

先行研究

3

分析アプローチ

4

予備的分析・推計

5

おわりに

# 先行研究



三世代同居の動機やメリット



居住距離（同居と近居）



祖父母の家事育児参加の属性・要因、メリット

# 三世代同居の動機やメリット

## 西本ら（2004）

### 【概要】

親との同居や介護が妻の就業選択にどのような影響を及ぼすかについての分析

### 【結果】

- ・ 母親との同居が妻の就業を促す。
- ・ 非就業及び短時間労働の父親との同居が妻のフルタイム就業を促す。  
(同居による家事や育児の援助が受けられる状況)
- ・ 介護は妻の就業を抑制

## 兪崢（2015）

### 【概要】

祖父母の有無と子どもの教育の関係について、世帯構成が子どもの認知・非認知能力と教育投資に与える影響を検証

### 【結果】

- ・ 三世代世帯の子どもの方が認知能力も非認知能力も高い。
- ・ 子どもの勉強の面倒をみる意味では、祖父母の存在は親と同様の効果を持ち、非認知能力を育む意味では、祖父母には親が与えられない効果がある。
- ・ 時間と財ともに教育投資が多い。

## 安藤（2017）

### 【概要】

初孫の母親のフルタイム就業と祖父母の親役割代替経験の認識とその関連性についての研究

### 【結果】

- ・ 同居もしくは近居であると、遠居よりも祖父母による子育てのサポートを受けやすい。
- ・ 三世代同居は妻の就業継続、育児不安解消などにも一定程度寄与する。

## 大西ら（1997）

### 【概要】

家族形態が高齢者の主観的幸福感に与えている影響についての研究

### 【結果】

GDS（鬱度）が低くLSIK（生活満足度）が高かった三世代世帯の高齢者の場合は、子どもや孫と一緒に生活できることの幸せや、病気や介護に対する不安があったとしても、老親の扶養に対する子どもへの期待度が高いことが、主観的幸福感として現れていると考えられる。

# 三世代同居の動機やメリット

## 【概要】

親との同居  
かについて

## 【結果】

- ・母親との
- ・非就業及
- 業を促す。
- (同居によ
- ・介護は妻

成が子どもの

高い。  
は親と同様の  
親が与えられ

三世代で同居することによって、  
祖父母から家事・育児のサポートが受けられ、  
妻の就業促進につながる。  
また、子どもの能力や教育投資にも好影響をもたらす。



介護は妻の就業を抑制する。

## 【概要】

初孫の母親  
と関連

## 【結果】

- ・同居もし
- のサポート
- ・三世代同居は妻の就業継続、育児不安解消などにも一定程度  
寄与する。

についての研究

三世代世帯の  
この幸せや、  
夫養に対する

子どもへの期待度が高いことが、主観的幸福感として現れていると  
考えられる。

# 居住距離（同居と近居）

## 【概要】 新田ら（2016）

親子の同居や近居の住み方が比較的多いとされる中部・北陸地方において、高齢者の親世帯と子世帯の住み方に着目し、親子の居住形態の規定要因及び親子間の居住距離と子世帯の生活安心感・居住満足度等の関係について研究

### 【結果】

- ・親との居住距離が「近居」から「中距離近居」の層で住み方に対する満足度が高い。
- ・同居の利点は何かあったときの安心感があること、親の世話がしやすいこと、家計上助かることが多いこと。

## 【概要】 福田ら（2012）

子育て世代の男女それぞれの母親の効果を同居と近居に分けて分析

### 【結果】

- ・6歳未満の子どもの存在は女性の就労を抑制するが、女性の親が近く（徒歩15分以内）に住んでいる場合は子どもがいないときとほぼ同程度にまで回復する。
- ・女性の母親の同居には同様の効果がなく、女性の就労に当たっては同居よりも近居の方が重要と考えられる（→共働き夫婦は親世代と同居する経済的なインセンティブに乏しいことを反映していると考えられる。）

## 千年（2016）

### 【概要】

妻・夫それぞれの母親との居住距離と女性の就業について、近居が及ぼす影響、また親との近居が有配偶女性の就業にどのような影響を及ぼすのかについて研究

### 【結果】

- ・近居は女性の正規就業を促進する効果があるが、同居にはみられなかった。  
（同居は育児と母の見守りのダブルケアが必要）
- ・同居は必ずしも祖父母による子育て支援を意味しない。

## 齋藤ら（2017）

### 【概要】

3～5歳児を持つ親の育児におけるソーシャルサポートを就業形態別に様々な角度から研究

### 【結果】

- ・母方祖母が、最も頻繁に子どもと会い、最も様々な種類の関わりをしており、かつ最も頼れる相手であると母親が認識していることがわかった。
- ・居住地の距離は祖父母の種類により有意な違いはなかった。
- ・パートタイムの母親ほど祖父母から様々な面でサポートを受ける傾向がある（パートタイムの母親は、公的な支援（保育所や病児保育等）を受けるのがフルタイムの母親に比べ困難であるため）

# 居住距離（同居と近居）

## 【概要】

親子の同居・近居において、居住形態が生活満足度・心感・居住満足度に与える影響を分析した。

## 【結果】

- ・親との同居・近居に対する満足度は、同居・近居の利便性がしやすいほど高くなる傾向がある。

に分けて分析

女性の親がいないときと

労に当たって夫婦は親世代に代わって担っている

「近居」は住み方に対する満足度が高い。  
 「近居」は女性の正規就業を促進する効果がある。  
 （同居は育児と介護のダブルケアの状況が生まれるため）

## 【概要】

妻・夫それぞれが同居・近居が及ぼす影響を分析した。

## 【結果】

・近居は女性の就業形態別に異なる影響を及ぼすことがわかった。

（同居は育児と母の見守りのダブルケアが必要）

・同居は必ずしも祖父母による子育て支援を意味しない。

就業形態別に

の関わりをしることがわかった。

居住距離は祖父母の就業形態によって異なる傾向があった。

- ・パートタイムの母親ほど祖父母から様々な面でサポートを受ける傾向がある（パートタイムの母親は、公的な支援（保育所や病児保育等）を受けるのがフルタイムの母親に比べ困難であるため）

# 祖父母の家事育児参加の属性・要因、メリット

## 【概要】 平井（2022）

三世代同居家族における、祖父母の家事・育児時間算出、祖父母の家事・育児時間の規定要因分析、祖父母の家事・育児時が妻の負担軽減に寄与するかについての研究

### 【結果】

- ・祖父の家事・育児時間は、祖父の年齢や学歴が高いほど長くなる。
- ・祖母は母方同居であるほど、平日であるほど、父母が共働きであると、末子が0歳のときほど、孫の数が多いほど、長くなる。
- ・祖母の家事・育児参加は母の家事・育児時間を短くする。

## 【概要】 八重樫ら（2003）

### 【概要】

乳幼児を持つ母親を対象に、祖父母の子育て参加の実態を明らかにし、祖父母の子育て参加と母親の子育て不安との関連性について研究

### 【結果】

- ・孫の近くに住んでいる祖父母は、孫とよく交流（訪問・電話）していた。
- ・母方祖母、父方祖母、母方祖父、父方祖父の順で、祖父母の子育て参加や孫との関係が多かった。
- ・祖父母の子育て支参加や孫との関わり方が適度であると、母親の子育て負担が低かった。

## 【概要】 Jan et al.（2023）

### 【概要】

アメリカコミュニティ調査における三世代家族に関する情報を使用し、三世代世帯における祖父母の孫に対する責任の認識に関連する要因を分析。

### 【結果】

- ・三世代世帯において、祖父母が孫に対する責任があると報告する可能性と経済的な資源が関連していた。
- ・就学前の孫がいる場合、孫に対する責任を自認する可能性が低くなった。

## 【概要】 平河（2018）

### 【概要】

保育所や祖父母による保育の利用可能性が母親の就業に与える影響を実証分析

### 【結果】

- ・全国の保育所定員数に対する各市区町村の保育所定員数の比率は、母親の就業確率を有意に上昇させる。
- ・祖父母との近居は母親の就業確率を有意に上昇させる。同居は正の効果があるものの、有意ではない。＝同居と遠方に居住する場合で効果は変わらない。

# 祖父母の家事育児参加の属性・要因、メリット

## 平井（2022）

### 【概要】

三世代同居家族における、祖父母の家事・育児時間算出、祖父母の家事・育児参加の属性・要因、祖父母の家事・育児参加が母親の家事・育児負担軽減に寄与するかどうかについて研究

### 【結果】

- ・祖父の家事・育児参加は、母親の家事・育児負担を軽減する。
- ・祖母は母方の祖父母の家事・育児参加よりも、未子帯の祖父母の家事・育児参加が母親の家事・育児負担を軽減する。

## 八重樫ら（2003）

### 【概要】

乳幼児を持つ母親を対象に、祖父母の子育て参加の実態を明らかにし、祖父母の子育て参加が母親の就業に与える影響について研究

### 【結果】

- ・祖父母の子育て参加（訪問・電話）して、母親の就業に与える影響は、祖父母の子育て参加なしの場合よりも、母親の子育て参加がある場合の方が大きい。

祖父母の育児参加は、母親の家事・育児時間を短縮させ、子育て不安を軽減させる。

### 【概要】

アメリカコロンビア大学の調査結果に基づき、三世代同居家族の祖父母の家事・育児参加が母親の就業に与える影響について研究

### 【結果】

- ・三世代世帯において、祖父母が孫に対する責任があると報告する可能性と経済的な資源が関連していた。
- ・就学前の孫がいる場合、孫に対する責任を自認する可能性が低くなった。

### 【概要】

- ・全国の保育所定員数に対する各市区町村の保育所定員数の比率は、母親の就業確率を有意に上昇させる。
- ・祖父母との近居は母親の就業確率を有意に上昇させる。同居は正の効果があるものの、有意ではない。＝同居と遠方に居住する場合で効果は変わらない。

# 明らかにになっていること

祖母との同居が母親の就業状況や  
出生数、家事・育児時間に与える影響

親との居住距離が近いことが現在の  
住み方に対する満足度を与える影響

三世代同居が子どもの認知能力や  
非認知能力に与える影響

近居／同居が女性の就労に与える影響

三世代同居が時間と財の教育投資に  
与える影響

祖父母の家事／育児参加の属性

# 明らかにになっていないこと

どのような人が三世代暮らしを選ぶのか

三世代同居や近居による親世代の生活満足度や  
心身の健康に与える影響  
(育児と介護を区別)

三世代同居や近居による  
親世代の仕事面への効果

同居する祖父母が父方か母方による違い

# 明らかにしたいこと



世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析



三世代で生活することで、親世代の生活面（生活満足度や健康意識）にどのような影響があるのか



三世代で生活することが、親世代の仕事面（仕事のパフォーマンス・スキル向上）にどのような影響があるのか

# アジェンダ

1

背景・問題意識

2

先行研究

3

分析アプローチ

4

予備的分析・推計

5

おわりに

# 推計1 分析アプローチ

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

【使用モデル】多項ロジットモデル

$$\{M_{it}^{far}, M_{it}^{together}, M_{it}^{semi}, M_{it}^{near}\} = a_0 + a_1 P_1 + a_2 X_{it} + \varepsilon_{it}$$

### 【被説明変数】

居住距離（カテゴリー変数）

- 0：遠距離ダミー（ベース）
- 1：三世帯同居ダミー
- 2：三世帯準同居ダミー
- 3：近居ダミー

### 【説明変数】

要介護ダミー、末子年齢、子どもの数、大卒ダミー（夫・妻）、正規雇用ダミー（夫・妻）、夫婦正規雇用ダミー、大企業ダミー（夫・妻）

### 【コントロール変数】

年ダミー、年齢ダミー、業種ダミー

# 推計 1 仮説

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

祖父母のサポートを受けられる、三世代同居、準同居、近居の家庭の方が、祖父母のサポートを受けられない遠居の家庭よりも、

- ・ 祖父母が要介護の傾向が高い
- ・ 末子年齢が低い
- ・ 夫と妻の共働きの傾向が高い

# 推計2 分析アプローチ

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

【使用モデル】固定効果モデル（ハウスマン検定の結果）

$$Y_{it} = \alpha_0 + (\alpha_1 + \alpha_2 S_{it}^{care}) S_{it}^{living} + \alpha_3 X_{it} + T_t + F_i + \varepsilon_{it}$$

### 【被説明変数】

- ・主観的健康状態
- ・健康問題なしダミー
- ・メンタルヘルス指標
- ・生活満足度
- ・幸福度

要介護ダミー

### 【説明変数】

- ・同居ダミー
- ・準同居ダミー
- ・近居ダミー
- ・夫方同居ダミー
- ・妻方同居ダミー
- ・夫方準同居ダミー
- ・妻方準同居ダミー
- ・夫方近居ダミー
- ・妻方近居ダミー

### 【コントロール変数】

年齢、勤続年数、給与、週労働平均時間、週労働残業時間、週平均家事時間、週平均育児時間、喫煙頻度、飲酒頻度、運動習慣ダミー、平均睡眠時間、朝食毎日ダミー、通勤徒歩時間孫の数、孫の末子年齢、職種ダミー、職位ダミー

### 時間効果

- ・年ダミー

## 推計2 仮説

### 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

祖父母のサポートを受けられる、三世代同居、準同居、近居の夫婦の方が、祖父母のサポートを受けられない遠居の夫婦よりも、

- ・主観的健康状態が良い。
- ・健康問題がない。
- ・メンタルヘルスが良い。
- ・生活満足度が高い。
- ・幸福度が高い。

# 推計3 分析アプローチ

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

【使用モデル】 固定効果モデル（ハウスマン検定の結果）

$$Y_{it} = \alpha_0 + (\alpha_1 + \alpha_2 S_{it}^{care}) S_{it}^{living} + \alpha_3 X_{it} + T_t + F_i + \varepsilon_{it}$$

### 【被説明変数】

- ・ 相対的プレゼンティーズム
- ・ 絶対的プレゼンティーズム
- ・ ワークエンゲージメント
- ・ 仕事満足度

要介護ダミー

### 【説明変数】

- ・ 同居ダミー
- ・ 準同居ダミー
- ・ 近居ダミー
- ・ 夫方同居ダミー
- ・ 妻方同居ダミー
- ・ 夫方準同居ダミー
- ・ 妻方準同居ダミー
- ・ 夫方近居ダミー
- ・ 妻方近居ダミー

### 【コントロール変数】

年齢、勤続年数、給与、週労働平均時間、週労働残業時間、週平均家事時間、週平均育児時間、孫の数、孫の末子年齢、職種ダミー、職位ダミー

時間効果

- ・ 年ダミー

# 推計3 仮説

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

祖父母のサポートを受けられる、三世代同居、準同居、近居の夫婦の方が、祖父母のサポートを受けられない遠居の夫婦よりも、

- ・ 主観的生産性（相対評価）
- ・ 主観的生産性（絶対評価）
- ・ ワークエンゲージメント
- ・ 仕事満足度

が高い。

# 使用データ

## 日本家計パネル調査（JHPS／KHPS）

→就業、所得、教育、健康・医療などについて1年ごとに追跡調査したもの



日本家計パネル調査（JHPS）

対象年：2009年～2022年

対象者：20歳以上の男女

慶應義塾家計パネル調査（KHPS）

対象年：2004年～2022年

対象者：20歳～69歳の男女

日本家計パネル調査（JHPS／KHPS）

本稿では、2004年～2022年のデータを高校生以下の子どもがいる親世代にサンプルを絞って分析を行う

# 変数説明①

すべて、夫と妻で区別している

変数名	変数説明
回答者年齢	
同居人数	
三世代暮らしダミー	次頁参照
居住スタイル①	次頁参照
三世代同居ダミー	次頁参照
三世代準同居ダミー	次頁参照
近居ダミー	次頁参照
居住スタイル②	
父方同居ダミー	三世代で同居している人のうち、夫の両親と生活している場合に1を取るダミー変数
母方同居ダミー	三世代で同居している人のうち、妻の両親と生活している場合に1を取るダミー変数
父方準同居ダミー	三世代が同一の建物で別生計、あるいは同一敷地内で生活している人のうち、夫の両親と生活している場合に1を取るダミー変数
母方準同居ダミー	三世代が同一の建物で別生計、あるいは同一敷地内で生活している人のうち、妻の両親と生活している場合に1を取るダミー変数
父方近居ダミー	三世代で近くに住んでいる人のうち、夫の両親と生活している場合に1を取るダミー変数
母方近居ダミー	三世代で近くに住んでいる人のうち、妻の両親と生活している場合に1を取るダミー変数
主観的健康状態	次頁参照
生活満足度（生活全般）	次頁参照
幸福感（最近1週間）	次頁参照
メンタルヘルス指標（K6）	気分や不安障害を示す尺度で、合計が高いほどメンタルヘルスが良い
相対的プレゼンティーズム	WHO-HPQの質問における指標で、【問2】÷【問1】
絶対的プレゼンティーズム	WHO-HPQの質問における指標で、【問2】×10
ワークエンゲージメント	次頁参照
健康問題なしダミー	検診の結果、何も問題を指摘されなかった人を1とするダミー変数
健康状態	健康状態についての1~5の回答を反転させたもの
要介護ダミー	次頁参照
末子年齢	その世帯の最も若い年齢
孫の数	
就業ダミー	就業している場合に1を取るダミー変数

# 変数説明②

変数名	変数説明
大卒ダミー	大学を卒業している場合に1を取るダミー変数
飲酒頻度	飲酒頻度についての1~6の回答を反転させたもの
喫煙頻度	喫煙頻度についての1~4の回答を反転させたもの
運動習慣ダミー	定期的な運動をしている場合に1を取るダミー変数
生活時間	次頁参照
家事時間	次頁参照
育児時間	次頁参照
介護・看護・介助	次頁参照
家事	家事の頻度が「週に1回」以上と回答した人の週の平均時間
育児	育児の頻度が「週に1回」以上と回答した人の週の平均時間
スキル取得ダミー	該当年に自分の意志で仕事にかかわる技術や能力の向上のための取り組み（学校に通う、講座を受講する、自分で勉強する、など）をした場合に1を取るダミー変数
就業	
職種ダミー	
農林漁業	農林漁業の場合に1を取るダミー変数
販売	販売業の場合に1を取るダミー変数
サービス	サービス業の場合に1を取るダミー変数
管理	管理の場合に1を取るダミー変数
事務	事務の場合に1を取るダミー変数
運輸	運輸の場合に1を取るダミー変数
製造	製造業の場合に1を取るダミー変数
雇用形態ダミー	
役職無し	役職無しの場合に1を取るダミー変数
役職有り	役職がある場合に1を取るダミー変数
経営者	経営者である場合に1を取るダミー変数
契約社員	契約社員である場合に1を取るダミー変数
パートタイム	パートタイムである場合に1を取るダミー変数
正規雇用ダミー	正規雇用である場合に1を取るダミー変数
大企業ダミー	大企業に勤めている場合に1を取るダミー変数
週平均勤務時間	
週平均残業時間	
月平均労働日数	

# 変数説明

## \* 三世代暮らしダミー

問 12. 親との居住状況について、次のように分類した場合、どれにあてはまりますか。  
(最も近くに居住しているあなたの親または配偶者の親でお答えください)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 親と同一建物で、生計を共にしている (同居世帯)</li> <li>2 親と同一建物で、生計が別 (準同居世帯)</li> <li>3 親と同一敷地内の別建物に居住 (準同居世帯)</li> <li>4 同一町丁内または 1 km 以内に親が居住 (近隣地域居住)</li> <li>5 (区のある 21 大都市居住者) 同一区内に親が居住</li> <li>6 (その他の市部、郡部居住者) 同一市町村内に親が居住</li> <li>7 同一都道府県内に親が居住</li> <li>8 上記 1～7 地域以外に親が居住 (都道府県は )</li> <li>9 親は全員死亡</li> </ul> |  | <p>三世代同居ダミー</p> <p>三世代準同居ダミー</p> <p>近居ダミー</p> |
|---|--|---|

【問 13 で「1～8」と回答された方に】

付問. 同居または最も近くに居住している親は、次のうちどなたですか。

- |       |       |        |   |
|-------|-------|--------|---|
| 1 夫の親 | 2 妻の親 | 3 両方の親 | ② |
| ↓     | ↓     |        |   |
| 夫方祖父母 | 妻方祖父母 |        |   |

# 変数説明

## \* 要介護ダミー

介護と生活時間についておうかがいします。

問1. ご家族に介護を必要とする方はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、その方の住んでいる場所をお答えください。

複数人いらっしゃる場合は、最も介護度の重い方についてお答えください。

<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	
いる (施設入所)	いる (同居)	いる (その他)	いない (問5へ お進みください)	⑥9

↓

問2. 介護を必要とする方とあなたの続柄はなんですか。

<b>1</b> あなた本人	<b>3</b> あなたの父母	<b>5</b> あなたの祖父母	<b>7</b> きょうだい	<b>9</b> その他	⑦0
<b>2</b> 配偶者	<b>4</b> 配偶者の父母	<b>6</b> 配偶者の祖父母	<b>8</b> その他親族		

問1で1~3「いる」

かつ

問2で3「あなたの父母」

または4「配偶者の父母」

と回答した場合に

1をとるダミー変数

# 変数説明 推計 2

## \* メンタルヘルス指標

問 13. 次の質問では、過去 30 日の間、あなたがどのように感じていたかについておたずねします。  
それぞれの質問に対して、そういう気持ちをどれくらいの頻度で感じていたか、一番当てはまる番号に○を付けてください。

過去30 日の間にどれくらいしばしば…	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
a. 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
b. 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
c. そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか	1	2	3	4	5
d. 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
e. 何をするのも骨折りと感じましたか	1	2	3	4	5
f. 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

「K6」：Kesslerらが開発した6項目からなる尺度で、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的とするもの。

調査期間：2019~2022

本研究では6項目を平均し、1~5点の範囲で高いほどメンタルヘルスが良好とする。

# 変数説明 推計 2

## \* 生活満足度

生活の満足感についてお聞きいたします。

問1. あなたは、ご自身の生活についてどのように感じていますか。あなたの現在の状況について、下の項目ごとに「全く満足していない」を0、「満足でも不満でもない」を5、「完全に満足している」を10、として0から10の数字を1つ選んでください（○でかこんでください）。

⑳～㉔=skip

	満足していない ←					→ 満足している						
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
世帯所得	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉖
ご自身のお仕事	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉗
住居	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉘
治安や災害時の安全性	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉙
通勤・通学・買い物などの利便性	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉚
自然環境のよさ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉛
よか 余暇時間の長さ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉜
よか 余暇時間の過ごし方	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉝
ご自身の健康	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉞
生活全般	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉟

## \* 幸福感

ここからは、あなたのお考えや生活、健康などについてお聞きします。まず、幸福感についてお聞きいたします。

問1. あなたの次の期間での幸福感を、「全く幸福感がない」を0、「完全に幸福感を感じる」を10として、0から10の数字を1つ選んでください。

㉠～㉣=skip  
㉤～㉧=106

(1) 最近1週間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉢
(2) 最近1年間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉣
(3) これまでの一生	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉤

# 変数説明 推計 2

## \* 主観的健康状態

問 1. ふだんのあなたの健康状態はどうか。

- |          |          |          |          |          |    |
|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| <b>1</b> | <b>2</b> | <b>3</b> | <b>4</b> | <b>5</b> | ⑤② |
| よ い      | まあよい     | ふつう      | あまりよくない  | よくない     |    |

高いほど健康状態が良くなるように回答を反転

## \* 健康問題なしダミー

問 15. あなたは、昨年1年間に以下の健康診断を受けましたか。(〇はいくつでも)  
もし、受診した時期を覚えている場合は、いつ頃受けたか、いずれかに〇をつけてください。

- |          |                   |      |            |            |     |
|----------|-------------------|------|------------|------------|-----|
| <b>1</b> | まったく受けていない        |      |            |            |     |
| <b>2</b> | 会社や自治体の定期健康診断を受けた | 受診時期 | (2021年3月以前 | 2021年4月以降) |     |
| <b>3</b> | 人間ドックを受けた         | 受診時期 | (2021年3月以前 | 2021年4月以降) |     |
| <b>4</b> | 肺がん検診を受けた         | 受診時期 | (2021年3月以前 | 2021年4月以降) | ⑦③  |
| <b>5</b> | 子宮がん検診(女性のみ)を受けた  | 受診時期 | (2021年3月以前 | 2021年4月以降) | ⑦④⑤ |
| <b>6</b> | 乳がん検診を受けた         | 受診時期 | (2021年3月以前 | 2021年4月以降) |     |
| <b>7</b> | 大腸がん検診を受けた        | 受診時期 | (2021年3月以前 | 2021年4月以降) |     |
| <b>8</b> | その他(具体的に )        |      |            |            |     |

付問1において、  
12「何も問題は指摘されなかった」と回答した場合に  
1をとるダミー変数

【付問 1 は問 15 で「2、3」とお答えの方におうかがいします】

付問 1. 検診の結果どのような問題を指摘されましたか。(〇はいくつでも)

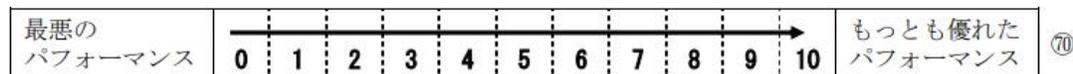
- |          |       |          |       |           |       |           |                   |      |
|----------|-------|----------|-------|-----------|-------|-----------|-------------------|------|
| <b>1</b> | 血圧関係  | <b>5</b> | 肝臓関係  | <b>9</b>  | 前立腺関係 | <b>12</b> | 何も問題は<br>指摘されなかった | ⑦⑥⑦⑦ |
| <b>2</b> | 骨密度関係 | <b>6</b> | 腎臓関係  | <b>10</b> | 代謝関係  |           |                   |      |
| <b>3</b> | 心臓関係  | <b>7</b> | 糖尿病関係 | <b>11</b> | 肥満関係  |           |                   |      |
| <b>4</b> | 貧血関係  | <b>8</b> | 電解質関係 |           |       |           |                   |      |

# 変数説明 推計 3

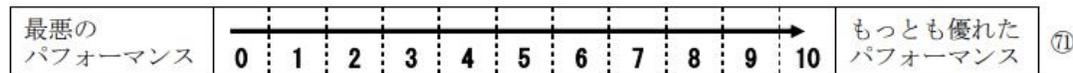
## \* 主観的生産性（仕事のパフォーマンス）

問9. あなたの仕事のパフォーマンスについてお聞きします。

- (1) **0**があなたの仕事において誰でも達成できるような仕事のパフォーマンス、**10**がもっとも優れた勤務者のパフォーマンスとした**0**から**10**までの尺度上で、あなたの仕事と似た仕事において多くの勤務者の普段のパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？



- (2) 同じ**0**から**10**までの尺度上で、過去4週間(28日間)の間のあなたの勤務日におけるあなたの総合的なパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？



WHO-HPQの質問で、  
労働者の健康状態と職業パフォーマンス（仕事の生産性や欠勤など）を評価するためのもの。

調査期間：2019~2022

**相対的プレゼンティーズム**→【問2】÷【問1】

※0.25>を0.25に、2.0<を2.0にする。  
数値が大きいほど通常の自分のパフォーマンスに近いことを示す。

**絶対的プレゼンティーズム**→【問2】×10

数値が大きいほど個人の労働パフォーマンスが高いことを示す。

※「プレゼンティーズム」  
体調不良やメンタルヘルス不調などが原因で  
従業員のパフォーマンスが低下している状態

# 変数説明 推計 3

## \* ワークエンゲージメント

問 10. 次の9つの質問文は、仕事に関してどう感じているかを記述したものです。各文をよく読んで、あなたが仕事に関してそのように感じているかどうかを判断してください。そのように感じたことが一度もない場合は0（ゼロ）を、感じたことがある場合はその頻度に当てはまる数字（1～6）を選んでください。

⑧⑨⑩=105

	まったく ない	ほとんど 感じない (1年に数 回以下)	めったに 感じない (1か月に 1回以下)	時々 感じる (1か月に 数回)	よく 感じる (1週間に 1回)	とてもよ く感じる (1週間に 数回)	いつも 感じる (毎日)	
①仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる	0	1	2	3	4	5	6	⑪
②職場では、元気が出て精力的になるように感じる	0	1	2	3	4	5	6	⑫
③仕事に熱心である	0	1	2	3	4	5	6	⑬
④仕事は、私に活力を与えてくれる	0	1	2	3	4	5	6	⑭
⑤朝に目がさめると、さあ仕事へ行こう、という気持ちになる	0	1	2	3	4	5	6	⑮
⑥仕事に没頭しているとき、幸せだと感じる	0	1	2	3	4	5	6	⑯
⑦自分の仕事に誇りを感じる	0	1	2	3	4	5	6	⑰
⑧私は仕事にのめり込んでいる	0	1	2	3	4	5	6	⑱
⑨仕事をしていると、つい夢中になってしまう	0	1	2	3	4	5	6	⑲

調査期間：2019~2022

①～⑨を平均し、数値が大きいほどワークエンゲージメントが高い

# 変数説明 推計 2

## \* 仕事満足度

生活の満足感についておうかがいします。

問 1. あなたは、ご自身の生活についてどのように感じていますか。あなたの現在の状況について、下の項目ごとに「全く満足していない」を0、「満足でも不満でもない」を5、「完全に満足している」を10、として0から10の数字を1つ選んでください（○でかこんでください）。

	満足していない ←					→ 満足している						
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
世帯所得	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	⑳
ご自身のお仕事	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉑
住居	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉒
治安や災害時の安全性	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉓
通勤・通学・買い物 などの利便性	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉔
自然環境のよさ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉕
よか 余暇時間の長さ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉖
よか 余暇時間の過ごし方	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉗
ご自身の健康	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉘
生活全般	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	㉙

㉓～㉕=skip

# 変数説明      コントロール変数

## \* 生活時間

【全員の方におうかがいします】

⑧⑨⑩=111

問5. あなたの生活時間についておうかがいします。それぞれの日常活動の頻度をお答えください。  
それぞれの項目の頻度が「週に1回」以上の場合には、その時間をお答えください。

(通勤通学を除いて、小数第1位まで 例：1時間→  時間、30分→  時間)

頻度	ほとんど毎日	週に数回	週に1回	ほとんどやっではない	まったくない	
通勤・通学(片道)	片道平均 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 分	片道平均 <input type="text" value="2"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 分	片道平均 <input type="text" value="3"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 分	4	5	⑩=skip ⑫ ⑬~⑰
家事(食事の用意、洗濯、買い物、掃除)	1日平均 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="2"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="3"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	4	5	⑳ ㉑~㉕
育児	1日平均 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="2"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="3"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	4	5	㉖ ㉗~㉙
仕事のための研修・学習	1日平均 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="2"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="3"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	4	5	㉚ ㉛~㉞
ボランティア活動	1日平均 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="2"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="3"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	4	5	㉟ ㊱~㊴
介護・看護・介助*1	1日平均 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="2"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	週平均 <input type="text" value="3"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value=""/> 時間	4	5	㊵ ㊶~㊹

\*1介護・看護・介助のために移動するために要した時間を含めて答えてください。

それぞれの項目で「週に1回」以上の場合の、週の平均時間

「ほとんど毎日」の場合、1日の平均時間×7で算出

# 基本統計量

変数名	標本数	平均	標準偏差	最小値	最大値
居住スタイルダミー①					
三世代同居ダミー	27,551	0.159	0.366	0	1
三世代準同居ダミー	27,551	0.039	0.193	0	1
三世代近居ダミー	27,551	0.323	0.468	0	1
居住スタイルダミー②					
夫方同居ダミー	27,551	0.109	0.311	0	1
妻方同居ダミー	27,551	0.050	0.217	0	1
夫方準同居ダミー	27,551	0.026	0.160	0	1
妻方準同居ダミー	27,551	0.012	0.109	0	1
夫方近居ダミー	27,551	0.137	0.344	0	1
妻方近居ダミー	27,551	0.152	0.359	0	1
要介護ダミー	27551	0.051	0.220	0	1
生活満足度（生活全般）					
夫	12,731	6.140	2.016	0	10
妻	12,993	6.144	2.140	0	10
幸福度（最近1年間）					
夫	17,033	6.262	2.077	0	10
妻	17,100	6.500	2.134	0	10
メンタルヘルス指標					
夫	4,911	1.689	0.773	1	5
妻	4,939	1.776	0.800	1	5
健康状態					
夫	27208	3.621	0.941	1	5
妻	27296	3.663	0.948	1	5

相対的プレゼンティーズム指標					
夫	4254	1.118	0.450	0	10
妻	3116	1.038	0.360	0	10
絶対的プレゼンティーズム指標					
夫	4290	64.072	16.768	0	100
妻	3140	61.261	16.606	0	100
ワークエンゲージメント					
夫	4833	2.943	1.296	0	6
妻	3729	3.065	1.304	0	6
仕事満足度					
夫	12722	5.454	2.425	0	10
妻	12652	5.344	2.513	0	10
末子年齢	27551	9.439	5.275	0	18
孫の数	22506	2.095	0.815	1	8
祖父母の年齢	7682	72.10	7.745	41	103
就業ダミー					
夫	27468	0.986	0.117	0	1
妻	27470	0.645	0.479	0	1
大卒ダミー					
夫	27551	0.058	0.234	0	1
妻	27551	0.025	0.157	0	1
正規雇用ダミー					
夫	22722	0.964	0.186	0	1
妻	14705	0.288	0.453	0	1
大企業ダミー					
夫	20722	0.367	0.482	0	1
妻	14330	0.248	0.432	0	1

# 基本統計量

変数名	標本数	平均	標準偏差	最小値	最大値
居住スタイルダミー①					
三世同居ダミー	27,551	0.159	0.366	0	1
三世準同居ダミー	27,551	0.039	0.193	0	1
三世近居ダミー	27,551	0.323	0.468	0	1
居住スタイルダミー②					
夫方同居ダミー	27,551	0.109	0.311	0	1
妻方同居ダミー	27,551	0.050	0.217	0	1
夫方準同居ダミー	27,551	0.026	0.160	0	1
妻方準同居ダミー	27,551	0.012	0.109	0	1
夫方近居ダミー	27,551	0.137	0.344	0	1
妻方近居ダミー	27,551	0.152	0.359	0	1
要介護ダミー	27551	0.051	0.220	0	1

- 三世同居は約**16%**、準同居は約**4%**、近居は約**30%**、遠距離は約**48%**
- 同居と準同居→夫方祖父母  
近居→妻方祖父母 のパターンの家庭が多い
- 祖父母が要介護の家庭は全体の**5%**

# 基本統計量

変数名		標本数	平均	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度（生活全般）	夫	12,731	6.140	2.016	0	10
	妻	12,993	6.144	2.140	0	10
幸福度（最近1年間）	夫	17,033	6.262	2.077	0	10
	妻	17,100	6.500	2.134	0	10
メンタルヘルス指標	夫	4,911	1.689	0.773	1	5
	妻	4,939	1.776	0.800	1	5
健康状態	夫	27208	3.621	0.941	1	5
	妻	27296	3.663	0.948	1	5
相対的プレゼンティーズム指標	夫	4254	1.118	0.450	0	10
	妻	3116	1.038	0.360	0	10
絶対的プレゼンティーズム指標	夫	4290	64.072	16.768	0	100
	妻	3140	61.261	16.606	0	100
ワークエンゲージメント	夫	4833	2.943	1.296	0	6
	妻	3729	3.065	1.304	0	6
仕事満足度	夫	12722	5.454	2.425	0	10
	妻	12652	5.344	2.513	0	10

・生活面→夫に比べ妻の平均値の方が高い

・仕事面→ワークエンゲージメントのみ妻の方が高く、  
プレゼンティーズム、仕事満足度は夫の方が高い

# アジェンダ

1

背景・問題意識

2

先行研究

3

分析アプローチ

4

予備的分析・推計

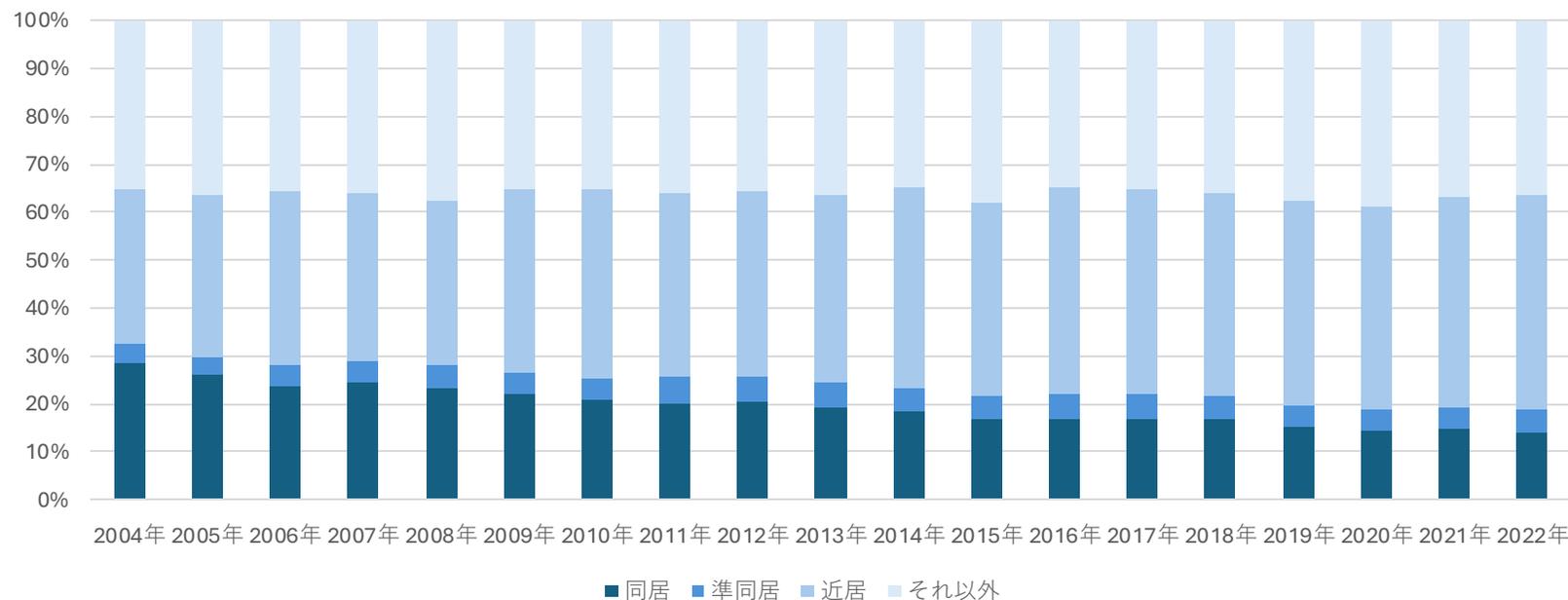
5

おわりに

# 推計 1 予備的分析

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

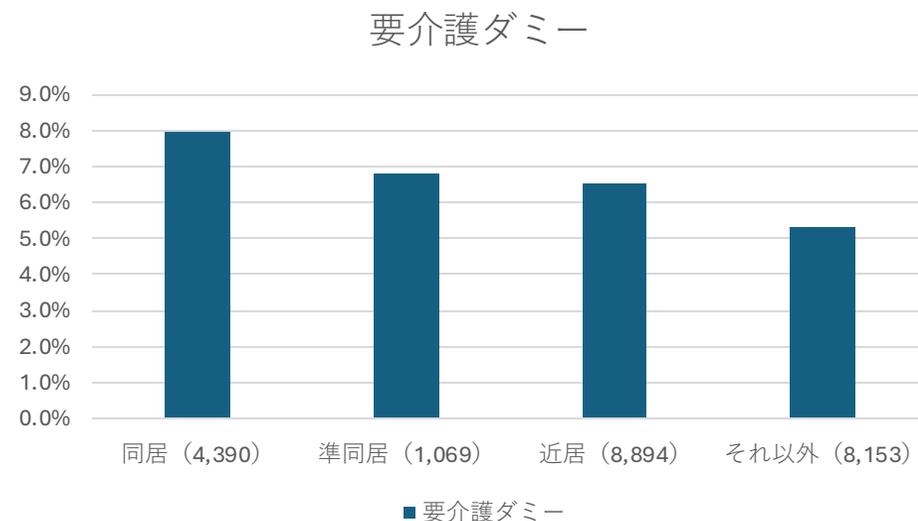
居住状況の推移



三世代で同居する家庭が減少傾向にある。= 政府統計との乖離は見られない  
近居が上昇傾向にある。

# 推計 1 予備的分析

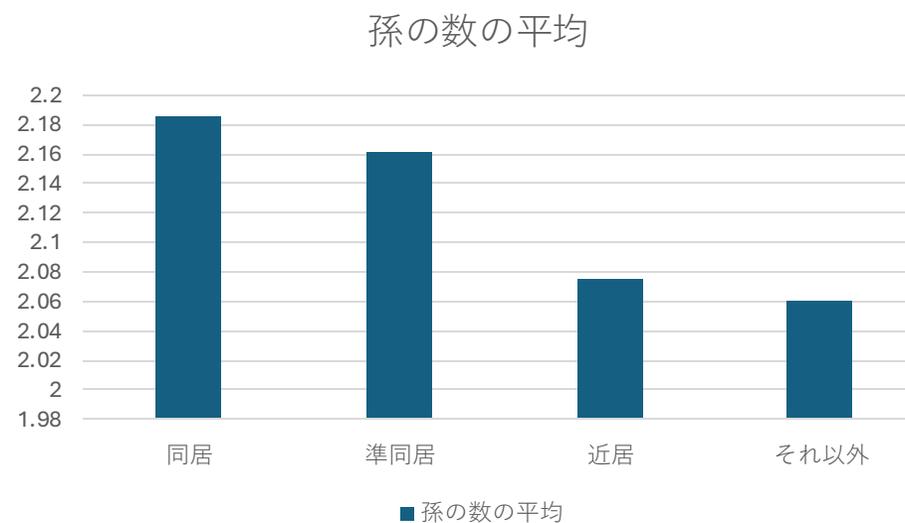
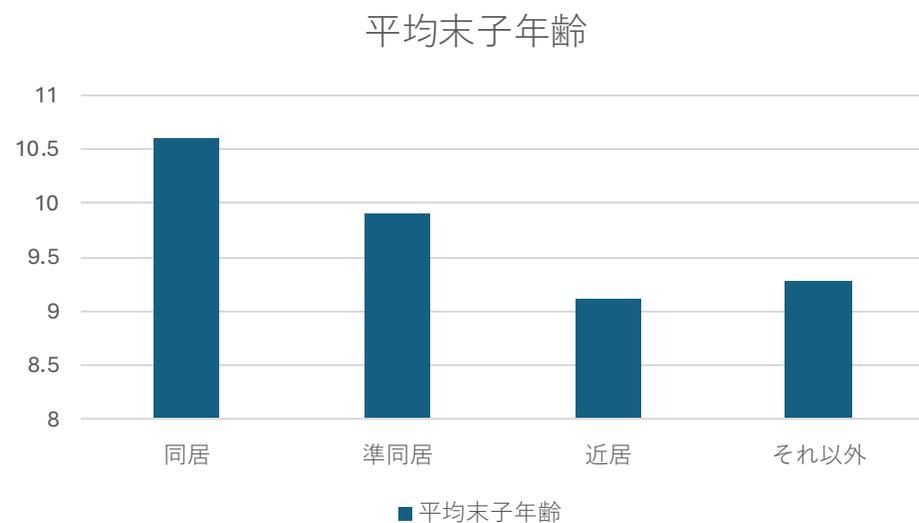
## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析



同居、準同居、近居、それ以外の順で介護が必要な家庭の割合が高くなっている  
→ 介護を考慮するべき

# 推計 1 予備的分析

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

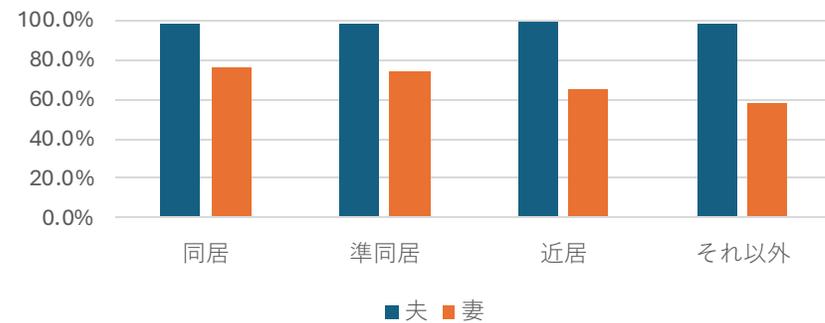


同居や準同居の家庭の末子年齢の平均が高い  
 →同居を選択した世代の年齢が高く、末子年齢も高くなっている可能性  
 同居、準同居、近居、それ以外の順で孫の数の平均が大きい。

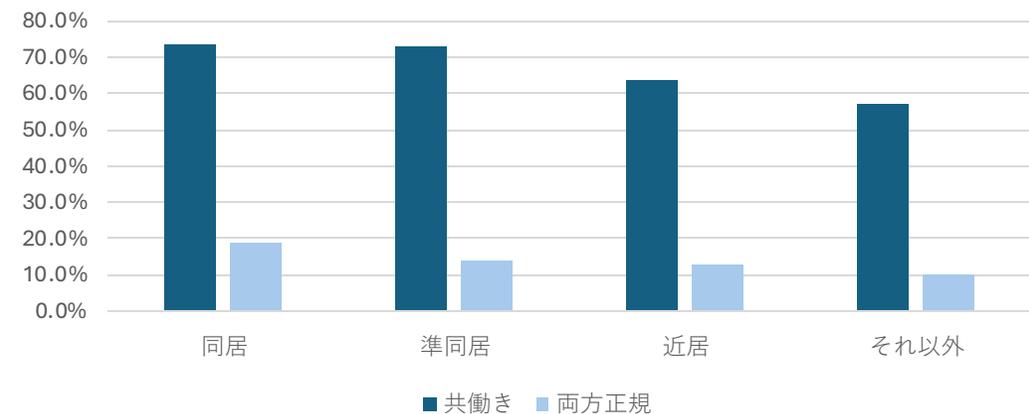
# 推計 1 予備的分析

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

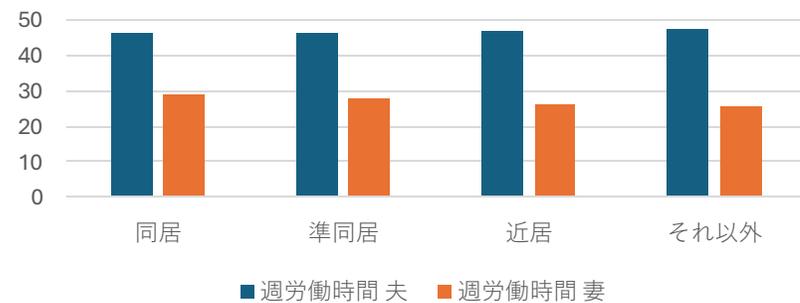
就業ダミー



夫婦の就業状況



週労働時間



- ・同居、準同居では共働きが多い
- ・同居、準同居、近居の順にどちらとも正規雇用の割合が高い

# 推計 1 推計結果

ある年を境に、同居・準同居・近居に変化した人の変化前の属性・要因分析

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

被説明変数＝居住距離（遠距離〈ベース〉、同居、準同居、近居）

	同居	準同居	近居
要介護ダミー	0.712*** (3.24)	0.0684 (0.20)	0.0922 (0.53)
末子年齢	0.00666 (0.39)	-0.0128 (-0.64)	-0.0200** (-2.29)
孫の数	0.134 (1.48)	0.0539 (0.42)	-0.0694 (-0.96)
大卒ダミー			
夫	-0.120 (-0.47)	-0.00854 (-0.02)	0.0303 (0.15)
妻	-0.121 (-0.32)	0.599 (1.10)	-0.274 (-1.02)
正規雇用ダミー			
夫	-0.0633 (-0.18)	0.888* (1.86)	0.297 (1.25)
妻	-0.395 (-0.70)	0.490 (0.61)	0.291 (0.62)
共働き正規ダミー	1.120** (1.96)	-0.247 (-0.29)	-0.135 (-0.28)
大企業ダミー			
夫	-0.456*** (-3.10)	-0.505* (-1.95)	-0.271** (-2.57)
妻	-0.136 (-0.92)	-0.269 (-1.08)	-0.144 (-1.35)
定数項	-1.556** (-2.15)	-3.975*** (-3.24)	0.316 (0.72)
年ダミー		yes	
年齢ダミー		yes	
業種ダミー		yes	
標本数		9,021	
ID数		2,062	

(注1) 括弧内はクラスター標準誤差を表す。

(注2) \*\*\*, \*\*, \*はそれぞれ1%, 5%, 10%水準で統計的に有意であることを示す。

# 推計 1 推計結果

ある年を境に、同居・準同居・近居に変化した人の変化前の属性・要因分析

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

被説明変数=居住距離（遠距離〈ベース〉、同居、準同居、近居）

	同居	準同居	近居
要介護ダミー	0.712*** (3.24)	0.0684 (0.20)	0.0922 (0.53)
末子年齢	0.00666 (0.39)	-0.0128 (-0.64)	-0.0200** (-2.29)
孫の数	0.134 (1.48)	0.0539 (0.42)	-0.0694 (-0.96)
大卒ダミー			
夫	-0.120 (-0.47)	-0.00854 (-0.02)	0.0303 (0.15)
妻	-0.121 (-0.32)	0.599 (1.10)	-0.274 (-1.02)
正規雇用ダミー			
夫	-0.0633 (-0.18)	0.888* (1.86)	0.297 (1.25)
妻	-0.395 (-0.70)	0.490 (0.61)	0.291 (0.62)

介護を必要としている祖父母がいる家庭ほど、同居する傾向

夫婦どちらも正規雇用として働いている家庭ほど祖父母と同居する傾向

	同居	準同居	近居
共働き正規ダミー	1.120** (1.96)	-0.247 (-0.29)	-0.135 (-0.28)
大企業ダミー			
夫	-0.456*** (-3.10)	-0.505* (-1.95)	-0.271** (-2.57)
妻	-0.136 (-0.92)	-0.269 (-1.08)	-0.144 (-1.35)
定数項	-1.556** (-2.15)	-3.975*** (-3.24)	0.316 (0.72)
年ダミー	yes		
年齢ダミー	yes		
業種ダミー	yes		
標本数	9,021		
ID数	2,062		

大企業に行く人は、大学進学時や就職時に上京してこの3つのパターンに該当しにくい可能性

(注1) 括弧内はクラスタ標準誤差を表す。

(注2) \*\*\*, \*\*, \*はそれぞれ1%, 5%, 10%水準で統計的に有意であることを示す。

# 推計 1 まとめ

## 世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

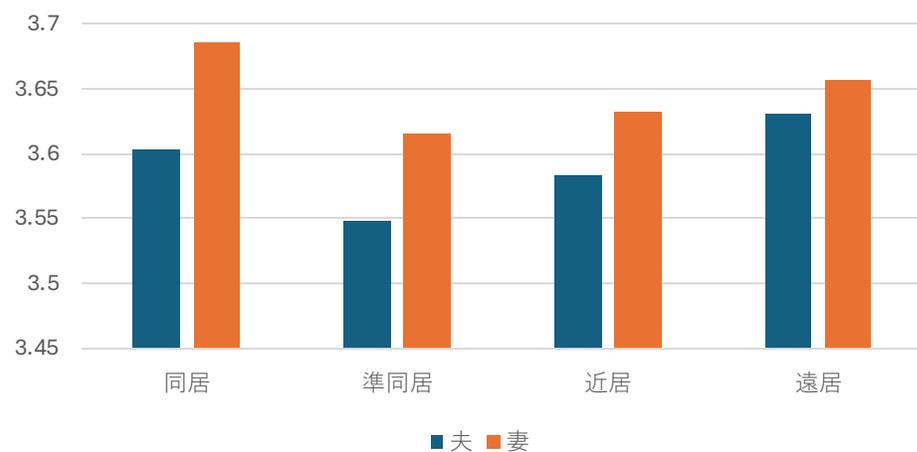
- ・ 介護を必要とする祖父母がいる家庭ほど同居を選択する
- ・ 夫婦共に正規雇用として働いている家庭ほど同居を選択する
- ・ 夫が大企業に勤めている家庭ほど同居、準同居、近居を選択しにくい  
→ 大学進学時や就職時に地元を離れ、核家族化しやすい可能性



# 推計 2 予備的分析

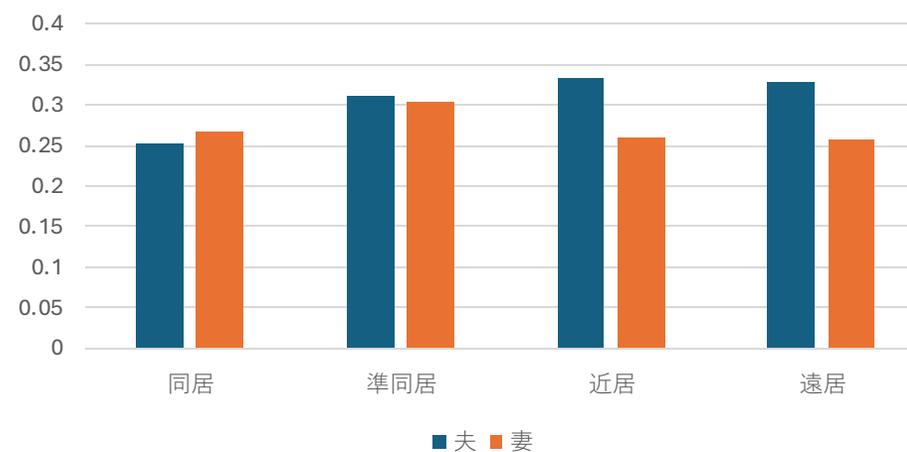
## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

主観的健康状態



- ・妻は同居の場合に健康状態が良い傾向にある。
- ・同居、準同居の場合に夫婦差が大きい。
- ・全体的に妻の方が良い傾向

健康問題なしダミー

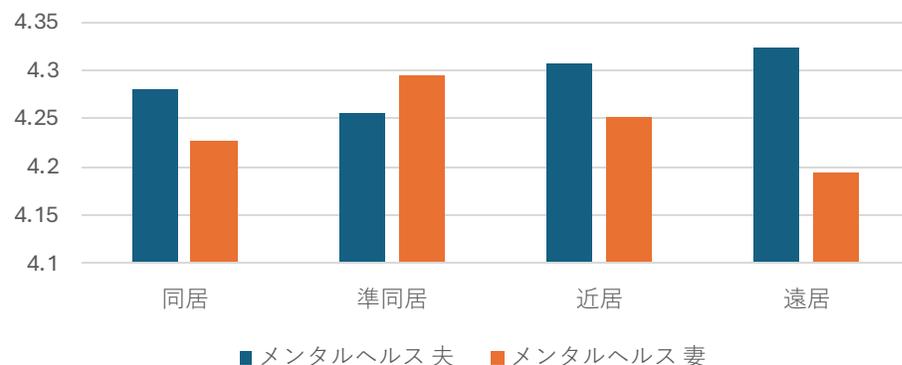


- ・夫の方が健康に問題がない傾向
- ・近居、遠居の場合に夫婦差が大きい

# 推計 2 予備的分析

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

メンタルヘルス指標

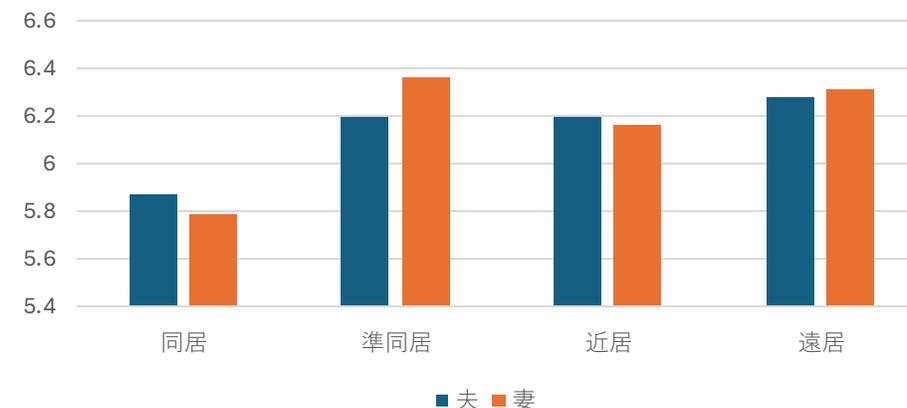


・ 準同居の場合に夫のメンタルヘルスが最も低く、妻のメンタルヘルスが最も高い傾向にあり、夫婦差が小さい。



・ 遠居の場合に夫のメンタルヘルスが最も高く、妻のメンタルヘルスが最も低い傾向にあり、夫婦差が大きい。

生活満足度



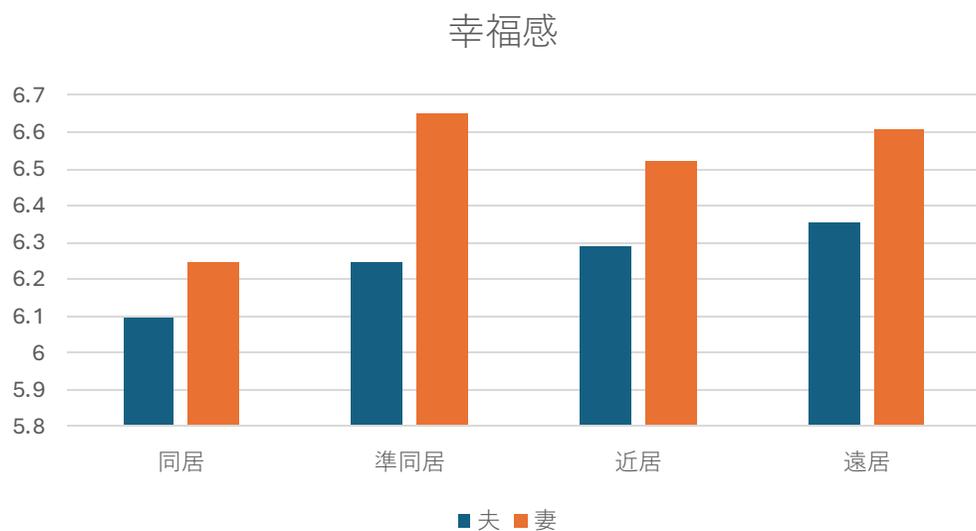
・ 同居の場合に生活満足度が非常に低い傾向にある。

・ 遠居の場合に生活満足度の夫婦差が小さく、夫婦ともに高い傾向にある。

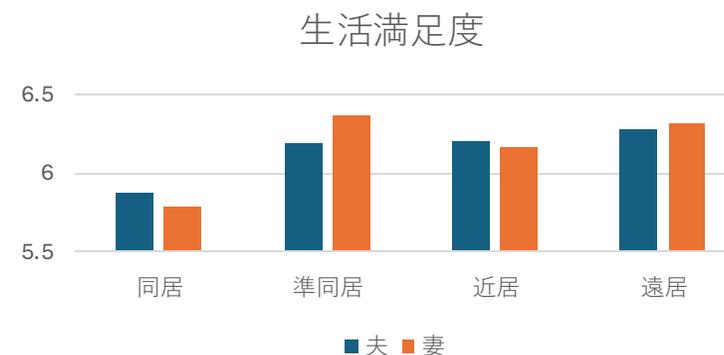


# 推計 2 予備的分析

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析



- ・ 遠居の場合に幸福度が高く、同居の場合に低い傾向にある。



- ・ 同居の場合に生活満足度が非常に低い傾向にある。
- ・ 遠居の場合に生活満足度の夫婦差が小さく、夫婦ともに高い傾向にある。

# 推計 2 推計結果 (夫)

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	主観的健康状態		健康問題なしダミー		メンタルヘルス指標		生活満足度		幸福度	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
同居	0.189 (0.315)		0.140 (0.185)		0.123 (0.309)		-0.00325 (0.513)		0.453 (0.646)	
準同居	0.101 (0.497)		0.0326 (0.292)		-1.111* (0.609)		0.612 (0.806)		-0.169 (1.019)	
近居	0.0617 (0.133)		-0.0332 (0.0783)		-0.174 (0.132)		-0.401* (0.218)		0.0889 (0.273)	
夫方祖父母同居		-0.247 (0.390)		0.0717 (0.229)		0.335 (0.394)		0.129 (0.632)		-0.453 (0.796)
妻方祖父母同居		0.373 (0.427)		0.203 (0.251)		0.265 (0.376)		-0.185 (0.692)		0.292 (0.873)
夫方祖父母準同居		0.907 (0.753)		-0.0291 (0.443)				2.516** (1.220)		2.426 (1.538)
妻方祖父母準同居		-0.284 (0.662)		0.0994 (0.389)		-0.949 (0.622)		-0.449 (1.074)		-2.119 (1.353)
夫方祖父母近居		0.0280 (0.167)		-0.105 (0.0982)		0.0219 (0.162)		-0.0949 (0.273)		-0.257 (0.341)
妻方祖父母近居		-0.0409 (0.161)		0.0367 (0.0948)		-0.0268 (0.167)		-0.545** (0.262)		0.0303 (0.329)
要介護ダミー	-0.678 (0.547)	-0.449 (0.470)	0.196 (0.276)	0.514 (0.627)	0.514 (0.627)	-0.0773 (0.506)	-0.157 (0.887)	-0.226 (0.762)	0.746 (1.121)	-0.498 (0.960)
同居*要介護ダミー	1.433** (0.675)		-0.269 (0.396)		-0.628 (0.734)		0.0344 (1.094)		-0.910 (1.383)	
準同居*要介護ダミー	0.246 (1.030)		-1.121* (0.605)		-5.463*** (1.588)		-0.476 (1.674)		-3.206 (2.110)	
近居*要介護ダミー	0.678 (0.610)		-0.0376 (0.358)		-0.768 (0.683)		0.220 (0.992)		-1.206 (1.250)	
夫方祖父母同居 *要介護ダミー		1.526 (0.992)		-0.157 (0.583)		-0.0304 (0.994)		-0.347 (1.608)		1.172 (2.025)
妻方祖父母同居 *要介護ダミー		1.164* (0.640)		-0.453 (0.376)		-0.0860 (0.663)		0.275 (1.036)		0.469 (1.306)
夫方祖父母準同居 *要介護ダミー		-0.0293 (0.991)		-1.251** (0.583)		-5.049*** (1.585)		-0.505 (1.608)		-2.209 (2.023)
妻方祖父母準同居 *要介護ダミー		- (0.991)		- (0.583)		- (1.585)		- (1.608)		- (2.023)
夫方祖父母近居 *要介護ダミー		0.643 (0.628)		-0.0618 (0.369)		-0.0364 (0.644)		0.797 (1.017)		0.559 (1.281)
妻方祖父母近居 *要介護ダミー		0.184 (0.622)		-0.343 (0.366)		-0.137 (0.646)		-0.201 (1.022)		0.264 (1.269)
定数項	82.75 (67.86)	81.86 (68.00)	80.72** (39.84)	78.90** (39.99)	174.9** (70.68)	181.0** (72.35)	58.44 (110.8)	59.94 (110.8)	325.6** (139.1)	333.8** (138.9)
年齢層ダミー					Yes					
コントロール変数					Yes					
年ダミー					Yes					
標本数	893	893	894	894	737	737	880	880	892	892
ID数	415	415	415	415	378	378	411	411	415	415

(注1) 括弧内は標準誤差を表す。

(注2) \*\*\*はそれぞれ1%,5%,10%水準で統計的に有意であることを示す。

# 推計2 推計結果 (夫)

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	主観的健康状態		健康問題なしダミー			主観的健康状態		健康問題なしダミー	
	(1)	(2)	(3)	(4)		(1)	(2)	(3)	(4)
同居	0.189 (0.315)		0.140 (0.185)		要介護ダミー	-0.678 (0.547)	-0.449 (0.470)	0.196 (0.276)	0.514 (0.627)
準同居	0.101 (0.497)		0.0326 (0.292)		同居×要介護ダミー	1.433** (0.675)		-0.269 (0.396)	
近居	0.0617 (0.133)		-0.0332 (0.0783)		準同居×要介護ダミー	0.246 (1.030)		-1.121* (0.605)	
夫方祖父母同居		-0.247 (0.390)		0.0717 (0.229)	近居×要介護ダミー	0.678 (0.610)		-0.0376 (0.358)	
妻方祖父母同居		0.373 (0.427)		0.203 (0.251)	夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		1.526 (0.992)		-0.157 (0.583)
夫方祖父母準同居		0.907 (0.753)		-0.0291 (0.443)	妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		1.164* (0.640)		-0.453 (0.376)
妻方祖父母準同居		-0.284 (0.662)		0.0994 (0.389)	夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-0.0293 (0.991)		-1.251** (0.583)
夫方祖父母近居		0.0280 (0.167)		-0.105 (0.0982)	妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-		-
妻方祖父母近居		-0.0409 (0.161)		0.0367 (0.0948)	夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		0.643 (0.628)		-0.0618 (0.369)
					妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		0.184 (0.622)		-0.343 (0.366)

### <主観的健康状態>

**正**に有意：同居ダミー×要介護ダミー  
妻方同居ダミー×要介護ダミー

### <健康問題なしダミー>

**負**に有意：準同居ダミー×要介護ダミー  
夫方準同居ダミー×要介護ダミー

祖父母が要介護状態である場合には、同居、特に配偶者の親との同居によって主観的健康状態が良くなりやすく、準同居、特に自分の親との準同居によって健康問題がある確率が高くなりやすい。

主観的健康状態の解釈  
同居している祖父母の介護によって生活が規則正しくなることが関係している。

# 推計2 推計結果 (夫)

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	メンタルヘルス指標		生活満足度		幸福度	
	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
同居	0.123 (0.309)		-0.00325 (0.513)		0.453 (0.646)	
準同居	<b>-1.111*</b> (0.609)		0.612 (0.806)		-0.169 (1.019)	
近居	-0.174 (0.132)		<b>-0.401*</b> (0.218)		0.0889 (0.273)	
夫方祖父母同居		0.335 (0.394)	0.129 (0.632)		-0.453 (0.796)	
妻方祖父母同居		0.265 (0.376)	-0.185 (0.692)		0.292 (0.873)	
夫方祖父母準同居			<b>2.516**</b> (1.220)		2.426 (1.538)	
妻方祖父母準同居		-0.949 (0.622)	-0.449 (1.074)		-2.119 (1.353)	
夫方祖父母近居		0.0219 (0.162)	-0.0949 (0.273)		-0.257 (0.341)	
妻方祖父母近居		-0.0268 (0.167)	<b>-0.545**</b> (0.262)		0.0303 (0.329)	

<メンタルヘルス>  
負に有意：準同居ダミー

<生活満足度>  
正に有意：夫方準同居ダミー  
負に有意：近居ダミー、妻方近居ダミー

準同居は遠居よりもメンタルヘルスが  
悪くなりやすい。

自分の親との準同居は遠居よりも  
生活満足度が高くなりやすく、  
近居、特に配偶者の親との近居は  
遠居よりも低くなりやすい。

(←新田ら(2016)の住み方に対する満足度の結果)

# 推計 2 推計結果 (夫)

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	メンタルヘルス指標		生活満足度		幸福度	
	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
同居	0.123 (0.309)		-0.00325 (0.513)		0.453 (0.646)	
準同居	-1.111* (0.609)		0.612 (0.806)		-0.169 (1.019)	
近居	-0.174 (0.132)		-0.401* (0.218)		0.0889 (0.273)	
夫方祖父母同居		0.335 (0.394)		0.129 (0.632)		-0.453 (0.796)
妻方祖父母同居		0.265 (0.376)		-0.185 (0.692)		0.292 (0.873)
夫方祖父母準同居				2.516** (1.220)		2.426 (1.538)
妻方祖父母準同居		-0.949 (0.622)		-0.449 (1.074)		-2.119 (1.353)
夫方祖父母近居		0.0219 (0.162)		-0.0949 (0.273)		-0.257 (0.341)
妻方祖父母近居		-0.0268 (0.167)		-0.545** (0.262)		0.0303 (0.329)

	メンタルヘルス指標		生活満足度		幸福度	
	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
要介護ダミー	0.514 (0.627)	-0.0773 (0.506)	-0.157 (0.887)	-0.226 (0.762)	0.746 (1.121)	-0.498 (0.960)
同居×要介護ダミー			0.0344 (0.734)		-0.910 (1.383)	
準同居×要介護ダミー		-5.463*** (1.588)		-0.476 (1.674)		-3.206 (2.110)
近居×要介護ダミー		-0.768 (0.683)		0.220 (0.992)		-1.206 (1.250)
夫方祖父母同居		-0.0304 (0.994)		-0.347 (1.608)		1.172 (2.025)
妻方祖父母同居		-0.0860 (0.663)		0.275 (1.036)		0.469 (1.306)
夫方祖父母準同居		-5.049*** (1.585)		-0.505 (1.608)		-2.209 (2.023)
妻方祖父母準同居		-		-		-
夫方祖父母近居		-0.0364 (0.644)		0.797 (1.017)		0.559 (1.281)
妻方祖父母近居		-0.137 (0.646)		-0.201 (1.022)		0.264 (1.269)

<メンタルヘルス>

負に有意：準同居ダミー、  
準同居ダミー×要介護ダミー  
夫方準同居ダミー×要介護ダミー

準同居は遠居よりもメンタルヘルスが悪くなりやすく、  
祖父母が要介護の場合、さらに悪くなりやすい。

祖父母が要介護の場合には、自分の親との準同居によって  
メンタルヘルスが悪くなりやすい。

# 推計 2 推計結果 (妻)

## 三世帯生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	主観的健康状態		健康問題なしダミー		メンタルヘルス指標		生活満足度		幸福度	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
同居	0.103 (0.217)		-0.00890 (0.148)		-0.00861 (0.232)		-0.224 (0.426)		-0.448 (0.507)	
準同居	-0.221 (0.240)		0.0795 (0.163)		-0.235 (0.261)		-0.565 (0.462)		-0.0834 (0.560)	
近居	0.216* (0.110)		-0.0862 (0.0743)		0.167 (0.116)		-0.411* (0.211)		-0.00170 (0.255)	
夫方祖父母同居		-0.0288 (0.225)		0.0531 (0.153)		-0.218 (0.232)		-0.365 (0.433)		-0.564 (0.526)
妻方祖父母同居		0.0692 (0.291)		-0.0791 (0.198)		-0.284 (0.285)		-0.0611 (0.585)		-0.445 (0.678)
夫方祖父母準同居		-0.268 (0.245)		0.112 (0.167)		-0.425 (0.270)		-0.203 (0.473)		0.106 (0.573)
妻方祖父母準同居		-0.0944 (0.643)		-0.216 (0.438)		-1.009 (0.768)		-2.068* (1.241)		-2.068 (1.501)
夫方祖父母近居		0.191 (0.122)		-0.108 (0.0831)		-0.0863 (0.135)		-0.178 (0.236)		0.00128 (0.285)
妻方祖父母近居		0.286** (0.129)		0.0507 (0.0866)		0.0910 (0.130)		0.0238 (0.245)		-0.155 (0.296)
要介護ダミー	-0.0484 (0.219)	0.0675 (0.196)	0.0723 (0.149)	0.0822 (0.133)	-0.267 (0.282)	-0.310 (0.267)	0.121 (0.421)	0.211 (0.376)	-0.211 (0.512)	0.184 (0.457)
同居×要介護ダミー	0.418 (0.350)		-0.303 (0.239)		0.385 (0.416)		-0.895 (0.677)		-0.159 (0.819)	
準同居×要介護ダミー	0.176 (0.420)		-0.0179 (0.286)		0.0641 (0.478)		-0.403 (0.808)		0.330 (0.981)	
近居×要介護ダミー	0.305 (0.262)		-0.000960 (0.179)		0.267 (0.323)		-0.356 (0.504)		0.300 (0.612)	
夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		0.381 (0.361)		-0.377 (0.246)		0.427 (0.445)		-0.392 (0.694)		-0.540 (0.843)
妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		0.226 (0.536)		0.0228 (0.366)		0.758 (0.579)		-1.582 (1.040)		-0.542 (1.252)
夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-0.000491 (0.586)		-0.127 (0.400)		-0.640 (0.659)		-2.021* (1.127)		-1.500 (1.369)
妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-0.000868 (0.712)		0.436 (0.486)		1.201 (1.041)		1.508 (1.372)		1.835 (1.664)
夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		0.218 (0.270)		-0.0476 (0.184)		0.658* (0.364)		-0.434 (0.519)		-0.196 (0.631)
妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		0.00950 (0.324)		0.00906 (0.221)		0.0520 (0.346)		-0.776 (0.622)		-0.384 (0.755)
定数項	-3.387** (1,459)	-3.216** (1,467)	1,163 (986.5)	1,310 (991.7)	1,002 (1,537)	976.3 (1,547)	2,326 (2,805)	2,260 (2,817)	1,811 (3,390)	1,712 (3,408)
年齢層ダミー					Yes					
コントロール変数					Yes					
年ダミー					Yes					
標本数	1,337	1,337	1,342	1,342	1,069	1,069	1,334	1,334	1,338	1,338
ID数	618	618	618	618	552	552	615	615	617	617

(注1) 括弧内は標準誤差を表す。

(注2) \*\*\*\*\*:それぞれ1%,5%,10%水準で統計的に有意であることを示す。

# 推計2 推計結果（妻）

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	主観的健康状態		健康問題なしダミー		メンタルヘルス指標	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
同居	0.103 (0.217)		-0.00890 (0.148)		-0.00861 (0.232)	
準同居	-0.221 (0.240)		0.0795 (0.163)		-0.235 (0.261)	
近居	<b>0.216*</b> (0.110)		-0.0862 (0.0743)		0.167 (0.116)	
夫方祖父母同居		-0.0288 (0.225)		0.0531 (0.153)		-0.218 (0.232)
妻方祖父母同居		0.0692 (0.291)		-0.0791 (0.198)		-0.284 (0.285)
夫方祖父母準同居		-0.268 (0.245)		0.112 (0.167)		-0.425 (0.270)
妻方祖父母準同居		-0.0944 (0.643)		-0.216 (0.438)		-1.009 (0.768)
夫方祖父母近居		0.191 (0.122)		-0.108 (0.0831)		-0.0863 (0.135)
妻方祖父母近居		<b>0.286**</b> (0.129)		0.0507 (0.0866)		0.0910 (0.130)

<主観的健康状態>

**正**に有意：近居ダミー、妻方近居ダミー

<メンタルヘルス>

**正**に有意：夫方近居ダミー×要介護ダミー

	主観的健康状態		健康問題なしダミー		メンタルヘルス指標	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
要介護ダミー	-0.0484 (0.219)	0.0675 (0.196)	0.0723 (0.149)	0.0822 (0.133)	-0.267 (0.282)	-0.310 (0.267)
同居×要介護ダミー	0.418 (0.350)		-0.303 (0.239)		0.385 (0.416)	
準同居×要介護ダミー	0.176 (0.420)		-0.0179 (0.286)		0.0641 (0.478)	
近居×要介護ダミー	0.305 (0.262)		-0.000960 (0.179)		0.267 (0.323)	
夫方祖父母同居		0.381 (0.361)		-0.377 (0.246)		0.427 (0.445)
×要介護ダミー						
妻方祖父母同居		0.226 (0.536)		0.0228 (0.366)		0.758 (0.579)
×要介護ダミー						
夫方祖父母準同居		-0.000491 (0.586)		-0.127 (0.400)		-0.640 (0.659)
×要介護ダミー						
妻方祖父母準同居		-0.000868 (0.712)		0.436 (0.486)		1.201 (1.041)
×要介護ダミー						
夫方祖父母近居		0.218 (0.270)		-0.0476 (0.184)		<b>0.658*</b> (0.364)
×要介護ダミー						
妻方祖父母近居		0.00950 (0.324)		0.00906 (0.221)		0.0520 (0.346)
×要介護ダミー						

- ・近居、特に自分の親と近居の場合、主観的健康状態が良くなりやすい。
- ・祖父母が要介護状態の場合には、配偶者の親との近居によってメンタルヘルスが良くなりやすい。

# 推計2 推計結果（妻）

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析

	生活満足度		幸福度			生活満足度		幸福度	
	(7)	(8)	(9)	(10)		(7)	(8)	(9)	(10)
同居	-0.224 (0.426)		-0.448 (0.507)		要介護ダミー	0.121 (0.421)	0.211 (0.376)	-0.211 (0.512)	0.184 (0.457)
準同居	-0.565 (0.462)		-0.0834 (0.560)		同居×要介護ダミー	-0.895 (0.677)		-0.159 (0.819)	
近居	<b>-0.411*</b> (0.211)		-0.00170 (0.255)		準同居×要介護ダミー	-0.403 (0.808)		0.330 (0.981)	
夫方祖父母同居		-0.365 (0.433)		-0.564 (0.526)	近居×要介護ダミー	-0.356 (0.504)		0.300 (0.612)	
妻方祖父母同居		-0.0611 (0.585)		-0.445 (0.678)	夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.392 (0.694)		-0.540 (0.843)
夫方祖父母準同居		-0.203 (0.473)		0.106 (0.573)	妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		-1.582 (1.040)		-0.542 (1.252)
妻方祖父母準同居		<b>-2.068*</b> (1.241)		-2.068 (1.501)	夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		<b>-2.021*</b> (1.127)		-1.500 (1.369)
夫方祖父母近居		-0.178 (0.236)		0.00128 (0.285)	妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		1.508 (1.372)		1.835 (1.664)
妻方祖父母近居		0.0238 (0.245)		-0.155 (0.296)	夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.434 (0.519)		-0.196 (0.631)
					妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.776 (0.622)		-0.384 (0.755)

### <生活満足度>

負に有意：近居ダミー、  
妻方準同居ダミー

夫方準同居ダミー×要介護ダミー

近居、自分の親との準同居の場合、  
生活満足度が低くなりやすい。  
祖父母が要介護の場合には、  
配偶者の親との準同居によって、  
生活満足度が低くなりやすい。

# 推計2 まとめ

## 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析



- ・自分の親との準同居の場合に**生活満足度が高くなりやすい**。
- ・近居、特に配偶者の親との近居の場合には**生活満足度が低くなりやすい**。
- ・準同居の場合に**メンタルヘルスが悪くなりやすい**。
- ・祖父母が要介護状態であることは**マイナスの影響**を与えることが多い。  
しかし、主観的健康状態については、要介護である場合、同居、特に配偶者の親との同居が**プラスの影響**を与えている。（←介護による規則正しい生活の影響？）

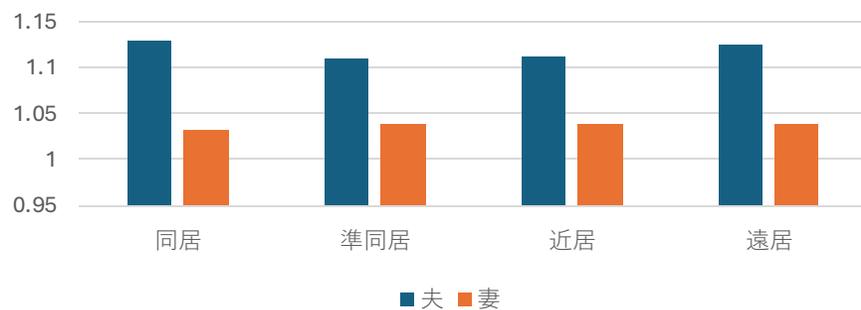


- ・近居の場合、**主観的健康状態は良くなりやすい**が、**生活満足度は低くなりやすい**。
- ・近居の中でも特に自分の親との近居の場合に**主観的健康状態が良くなりやすい**。
- ・祖父母が要介護である場合には、  
配偶者の親との準同居によって、**生活満足度が低くなりやすく**、  
配偶者の親との近居によって**メンタルヘルスが良くなりやすい**。

# 推計 3 予備的分析

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

相対的プレゼンティーズム

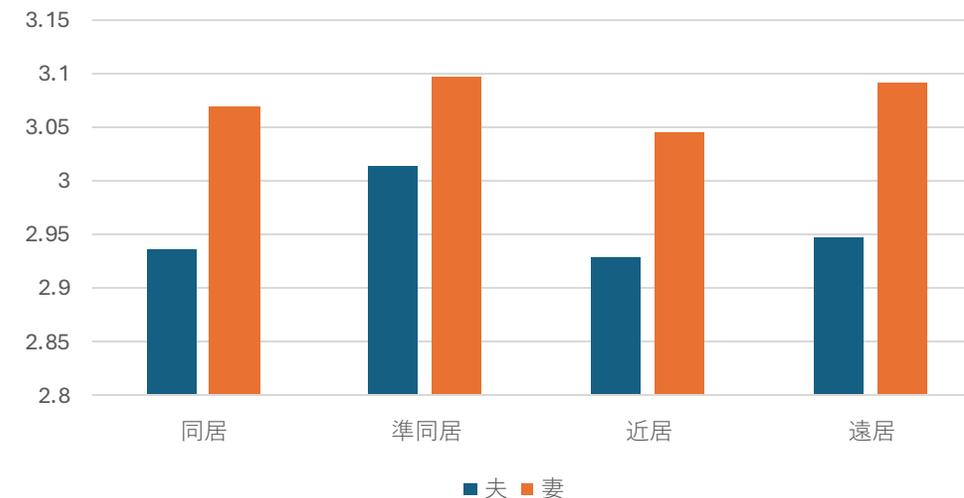


絶対的プレゼンティーズム



大差はないが、三世代同居の妻がどちらも低い傾向

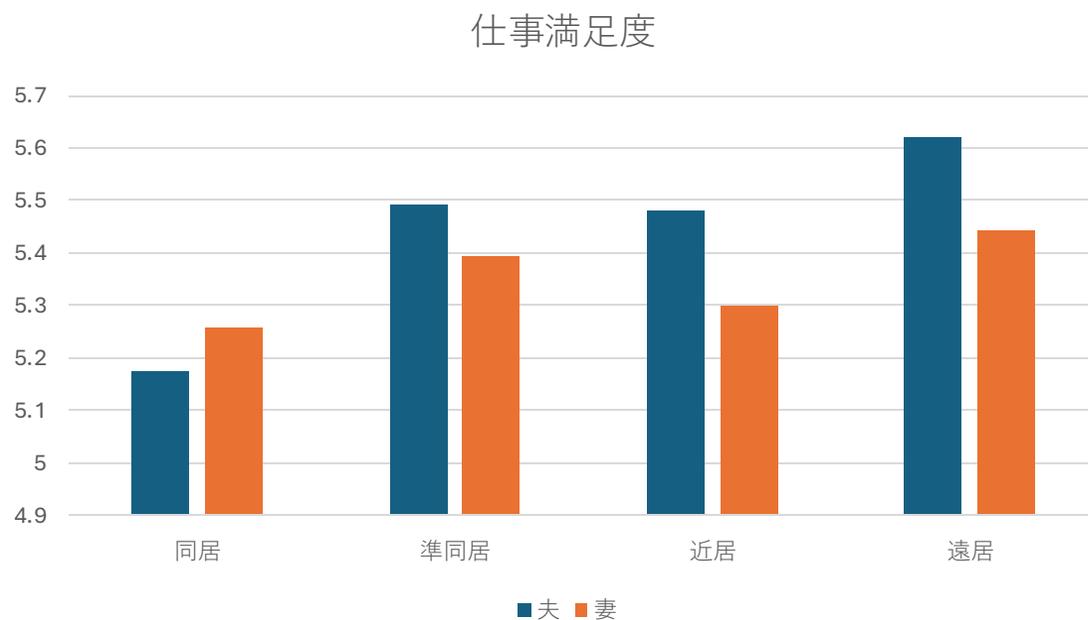
ワークエンゲージメント



- 妻のワークエンゲージメントが高い傾向
- 準同居の夫婦が最も高く、夫婦差も小さい傾向

# 推計 3 予備的分析

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析



- ・同居の夫婦が低く、遠居の夫婦が高い傾向
- ・同居の妻が夫よりも高い傾向

- ・ワークエンゲージメント以外の指標で、妻よりも夫の方が高い傾向にある。
- ・どの指標も同居が低い傾向

# 推計 3 推計結果 夫

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	相対的プレゼンティーズム		絶対的プレゼンティーズム		ワークエンゲージメント		仕事満足度	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
同居	-0.138 (0.174)		-14.03** (6.925)		-0.703* (0.373)		0.430 (0.568)	
準同居	-0.0897 (0.266)		-29.48*** (10.59)		-0.255 (0.563)		-0.784 (0.786)	
近居	0.0357 (0.0668)		0.492 (2.644)		-0.220 (0.140)		-0.604*** (0.229)	
夫方祖父母同居		-0.138 (0.210)		-19.62** (8.304)		-0.715 (0.443)		0.877 (0.656)
妻方祖父母同居		-0.241 (0.227)		-8.852 (8.991)		-0.584 (0.491)		0.196 (0.788)
夫方祖父母準同居		-0.276 (0.372)		-29.62** (14.74)		-0.0733 (0.785)		0.212 (1.010)
妻方祖父母準同居		0.0494 (0.354)		-30.83** (14.02)		-0.252 (0.747)		-1.468 (1.268)
夫方祖父母近居		0.0147 (0.0786)		-3.111 (3.097)		-0.275* (0.165)		-0.0224 (0.285)
妻方祖父母近居		0.0566 (0.0962)		5.309 (3.803)		0.0863 (0.202)		-0.824** (0.319)
要介護ダミー	0.0973 (0.113)	0.140 (0.119)	4.590 (4.480)	6.342 (4.673)	0.323 (0.236)	0.479** (0.243)	-0.158 (0.405)	-0.0883 (0.422)
同居×要介護ダミー	0.0363 (0.168)		8.612 (6.687)		-0.158 (0.336)		0.424 (0.595)	
準同居×要介護ダミー	-0.350 (0.282)		-8.706 (11.25)		-0.988* (0.597)		-0.101 (0.787)	
近居×要介護ダミー	-0.0554 (0.0845)		-1.579 (3.349)		-0.292 (0.177)		-0.185 (0.326)	
夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		0.0640 (0.213)		6.238 (8.445)		0.181 (0.449)		0.336 (0.746)
妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.0638 (0.264)		5.910 (10.44)		-0.756 (0.487)		0.227 (0.843)
夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-0.349 (0.283)		-8.965 (11.22)		-1.035* (0.597)		-0.138 (0.844)
妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-		-		-		-0.979 (2.153)
夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.0223 (0.104)		3.085 (4.117)		-0.118 (0.219)		-0.390 (0.395)
妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.216 (0.147)		-12.64** (5.794)		-0.878*** (0.305)		-0.511 (0.568)
定数項	-0.875 (2.468)	-0.870 (2.476)	-19.41 (98.16)	-7.123 (97.92)	-7.970 (5.271)	-7.368 (5.272)	5.575 (3.579)	5.487 (3.604)
年齢層ダミー				Yes				
コントロール変数				Yes				
年ダミー				Yes				
標本数	1,014	1,014	1,022	1,022	1,021	1,021	1,375	1,375
ID数	485	485	488	488	487	487	576	576

(注1) 括弧内は標準誤差を表す。

(注2) \*\*\*はそれぞれ1%,5%,10%水準で統計的に有意であることを示す。

# 推計3 推計結果 夫

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	相対的プレゼンティーズム		絶対的プレゼンティーズム			相対的プレゼンティーズム		絶対的プレゼンティーズム	
	(1)	(2)	(3)	(4)		(1)	(2)	(3)	(4)
同居	-0.138 (0.174)		-14.03** (6.925)		要介護ダミー	0.0973 (0.113)	0.140 (0.119)	4.590 (4.480)	6.342 (4.673)
準同居	-0.0897 (0.266)		-29.48*** (10.59)		同居×要介護ダミー	0.0363 (0.168)		8.612 (6.687)	
近居	0.0357 (0.0668)		0.492 (2.644)		準同居×要介護ダミー	-0.350 (0.282)		-8.706 (11.25)	
夫方祖父母同居	-0.138 (0.210)		-19.62** (8.304)		近居×要介護ダミー	-0.0554 (0.0845)		-1.579 (3.349)	
妻方祖父母同居	-0.241 (0.227)		-8.852 (8.991)		夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		0.0640 (0.213)		6.238 (8.445)
夫方祖父母準同居	-0.276 (0.372)		-29.62** (14.74)		妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.0638 (0.264)		5.910 (10.44)
妻方祖父母準同居	0.0494 (0.354)		-30.83** (14.02)		夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-0.349 (0.283)		-8.965 (11.22)
夫方祖父母近居	0.0147 (0.0786)		-3.111 (3.097)		妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-		-
妻方祖父母近居	0.0566 (0.0962)		5.309 (3.803)		夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.0223 (0.104)		3.085 (4.117)
					妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.216 (0.147)		-12.64** (5.794)

<絶対的プレゼンティーズム>  
負に有意：同居ダミー、準同居ダミー、  
夫方同居ダミー、  
夫方準同居ダミー、  
妻方準同居ダミー、  
妻方近居ダミー×要介護ダミー

・同居、特に自分の親との同居の場合と、準同居の場合、どちらの親との準同居においても遠居の場合に比べて、労働パフォーマンスが低くなりやすい。

・祖父母が要介護状態には、配偶者の親との近居によって、労働パフォーマンスが低くなりやすい。

# 推計 3 推計結果 夫

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	ワークエンゲージメント		仕事満足度			ワークエンゲージメント		仕事満足度	
	(5)	(6)	(7)	(8)		(5)	(6)	(7)	(8)
同居	-0.703*		0.430		要介護ダミー	0.323	0.479**	-0.158	-0.0883
	(0.373)		(0.568)			(0.236)	(0.243)	(0.405)	(0.422)
準同居	-0.255		-0.784		同居×要介護ダミー	-0.158		0.424	
	(0.563)		(0.786)			(0.336)		(0.595)	
近居	-0.220		-0.604***		準同居×要介護ダミ	-0.988*		-0.101	
	(0.140)		(0.229)			(0.597)		(0.787)	
夫方祖父母同居	-0.715		0.877		近居×要介護ダミー	-0.292		-0.185	
	(0.443)		(0.656)			(0.177)		(0.326)	
妻方祖父母同居	-0.584		0.196		夫方祖父母同居		0.181		0.336
	(0.491)		(0.788)		×要介護ダミー		(0.449)		(0.746)
夫方祖父母準同居	-0.0733		0.212		妻方祖父母同居		-0.756		0.227
	(0.785)		(1.010)		×要介護ダミー		(0.487)		(0.843)
妻方祖父母準同居	-0.252		-1.468		夫方祖父母準同居		-1.035*		-0.138
	(0.747)		(1.268)		×要介護ダミー		(0.597)		(0.844)
夫方祖父母近居	-0.275*		-0.0224		妻方祖父母準同居		-		-0.979
	(0.165)		(0.285)		×要介護ダミー				(2.153)
妻方祖父母近居	0.0863		-0.824**		夫方祖父母近居		-0.118		-0.390
	(0.202)		(0.319)		×要介護ダミー		(0.219)		(0.395)
					妻方祖父母近居		-0.878***		-0.511
					×要介護ダミー		(0.305)		(0.568)

<ワークエンゲージメント>

正に有意：要介護ダミー

負に有意：同居ダミー、夫方近居ダミー、  
夫方準同居ダミー×要介護ダミー、  
妻方近居ダミー×要介護ダミー

<仕事満足度>

負に有意：近居ダミー、妻方近居ダミー

交差項と要介護ダミーの係数の合計が0  
であるという帰無仮説についてt検定を  
行なった結果、

→夫方準同居では、p値が0.6872とな  
り、

帰無仮説は棄却されず、  
妻方近居では、p値が0.0911となり、  
帰無仮説が棄却された。

# 推計 3 推計結果 夫

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	ワークエンゲージメント		仕事満足度			ワークエンゲージメント		仕事満足度	
	(5)	(6)	(7)	(8)		(5)	(6)	(7)	(8)
同居	-0.703*		0.430		要介護ダミー	0.323	0.479**	-0.158	-0.0883
	(0.373)		(0.568)			(0.236)	(0.243)	(0.405)	(0.422)
準同居	-0.255		-0.784		同居×要介護ダミー	-0.158		0.424	
	(0.563)		(0.786)			(0.336)		(0.595)	
近居	-0.220		-0.604***		準同居×要介護ダミ	-0.988*		-0.101	
	(0.140)		(0.229)			(0.597)		(0.787)	
夫方祖父母同居	-0.715		0.877		近居×要介護ダミー	-0.292		-0.185	
	(0.443)		(0.656)			(0.177)		(0.326)	
妻方祖父母同居	-0.584		0.196		夫方祖父母同居		0.181	0.336	
	(0.491)		(0.788)		×要介護ダミー		(0.449)	(0.746)	
夫方祖父母準同居	-0.0733		0.212		妻方祖父母同居		-0.756	0.227	
	(0.785)		(1.010)		×要介護ダミー		(0.487)	(0.843)	
妻方祖父母準同居	-0.252		-1.468		夫方祖父母準同居		-1.035*	-0.138	
	(0.747)		(1.268)		×要介護ダミー		(0.597)	(0.844)	
夫方祖父母近居	-0.275*		-0.0224		妻方祖父母準同居		-	-0.979	
	(0.165)		(0.285)		×要介護ダミー			(2.153)	
妻方祖父母近居	0.0863		-0.824**		夫方祖父母近居		-0.118	-0.390	
	(0.202)		(0.319)		×要介護ダミー		(0.219)	(0.395)	
					妻方祖父母近居		0.878***	-0.511	
					×要介護ダミー		(0.305)	(0.568)	

<ワークエンゲージメント>

正に有意：要介護ダミー

負に有意：同居ダミー、夫方近居ダミー、  
夫方準同居ダミー×要介護ダミー、  
妻方近居ダミー×要介護ダミー

<仕事満足度>

負に有意：近居ダミー、妻方近居ダミー

ワークエンゲージメントは同居、  
自分の親との近居の場合、低くなりやすい。  
祖父母が要介護状態の場合には、そうでない  
場合より高くなりやすいが、  
配偶者の親との近居によって低くなりやすい。

仕事満足度は近居、特に配偶者の親との近居  
によって低くなりやすい。

# 推計 3 推計結果 妻

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	相対的プレゼンティーズム		絶対的プレゼンティーズム		ワークエンゲージメント		仕事満足度	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
同居	0.0737 (0.117)		-3.260 (5.972)		-0.0973 (0.275)		0.201 (0.438)	
準同居	0.249* (0.127)		-2.748 (6.503)		-0.530* (0.308)		0.111 (0.538)	
近居	0.0615 (0.0514)		-1.191 (2.627)		-0.402*** (0.124)		0.0825 (0.233)	
夫方祖父母同居		0.0564 (0.122)		-2.705 (6.212)		-0.0478 (0.295)		0.103 (0.497)
妻方祖父母同居		-0.0305 (0.144)		-2.978 (7.345)		0.135 (0.329)		0.00630 (0.557)
夫方祖父母準同居		0.246* (0.129)		-0.872 (6.563)		-0.327 (0.312)		0.0491 (0.564)
妻方祖父母準同居		-0.150 (0.417)		-8.405 (21.31)		-0.0870 (1.007)		-0.565 (1.218)
夫方祖父母近居		0.110* (0.0626)		3.269 (3.158)		-0.346** (0.148)		-0.250 (0.275)
妻方祖父母近居		0.0152 (0.0605)		-1.714 (3.086)		-0.261* (0.148)		0.301 (0.285)
要介護ダミー	0.0618 (0.0799)	0.0744 (0.0797)	-0.889 (4.081)	-0.887 (4.067)	-0.169 (0.194)	-0.156 (0.193)	0.0444 (0.332)	0.0800 (0.321)
同居×要介護ダミー	-0.0349 (0.127)		0.908 (6.453)		-0.268 (0.306)		-0.510 (0.518)	
準同居×要介護ダミー	0.134 (0.193)		3.414 (9.897)		-0.554 (0.471)		0.143 (0.722)	
近居×要介護ダミー	-0.0516 (0.0820)		-0.967 (4.192)		-0.165 (0.199)		-0.552 (0.379)	
夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		0.000528 (0.145)		5.068 (7.379)		-0.200 (0.351)		-0.578 (0.569)
妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.135 (0.227)		-10.66 (11.44)		-0.511 (0.542)		-0.205 (0.910)
夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		0.0962 (0.250)		1.710 (12.77)		-0.310 (0.608)		-0.328 (1.040)
妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		0.468 (0.539)		15.54 (27.52)		-2.038 (1.307)		0.801 (1.087)
夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.106 (0.100)		-2.231 (5.093)		0.0275 (0.242)		-0.375 (0.440)
妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.00993 (0.121)		-2.439 (6.186)		-0.512* (0.292)		-1.081* (0.568)
定数項	-1.233 (2.049)	-1.184 (2.063)	106.1 (103.9)	102.1 (104.5)	3.990 (4.908)	3.776 (4.936)	5.529 (3.653)	5.703 (3.744)
年齢層ダミー					Yes			
コントロール変数					Yes			
年ダミー					Yes			
標本数	1,285	1,285	1,299	1,299	1,304	1,304	2,009	2,009
ID数	609	609	612	612	612	612	783	783

(注1) 括弧内は標準誤差を表す。

(注2) \*\*\*はそれぞれ1%,5%,10%水準で統計的に有意であることを示す。

# 推計 3 推計結果 妻

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	相対的プレゼンティーズム		絶対的プレゼンティーズム			相対的プレゼンティーズム	
	(1)	(2)	(3)	(4)		(1)	(2)
同居	0.0737 (0.117)		-3.260 (5.972)		要介護ダミー	0.0618 (0.0799)	0.0744 (0.0797)
準同居	0.249* (0.127)		-2.748 (6.503)		同居×要介護ダミー	-0.0349 (0.127)	
近居	0.0615 (0.0514)		-1.191 (2.627)		準同居×要介護ダミー	0.134 (0.193)	
夫方祖父母同居		0.0564 (0.122)		-2.705 (6.212)	近居×要介護ダミー	-0.0516 (0.0820)	
妻方祖父母同居		-0.0305 (0.144)		-2.978 (7.345)	夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		0.000528 (0.145)
夫方祖父母準同居		0.246* (0.129)		-0.872 (6.563)	妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.135 (0.227)
妻方祖父母準同居		-0.150 (0.417)		-8.405 (21.31)	夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		0.0962 (0.250)
夫方祖父母近居		0.110* (0.0626)		3.269 (3.158)	妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		0.468 (0.539)
妻方祖父母近居		0.0152 (0.0605)		-1.714 (3.086)	夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.106 (0.100)
					妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.00993 (0.121)

<相対的プレゼンティーズム>  
**正**に有意：準同居ダミー、  
 夫方準同居ダミー、  
 夫方近居ダミー

準同居、特に配偶者の親との  
 準同居の場合と、  
 配偶者の親との近居の場合に、  
 通常の自分と近いパフォーマンスを  
 出しやすいといえる。

# 推計 3 推計結果 妻

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析

	ワークエンゲージメント		仕事満足度			ワークエンゲージメント		仕事満足度	
	(5)	(6)	(7)	(8)		(5)	(6)	(7)	(8)
同居	-0.0973 (0.275)		0.201 (0.438)		要介護ダミー	-0.169 (0.194)	-0.156 (0.193)	0.0444 (0.332)	0.0800 (0.321)
準同居	-0.530* (0.308)		0.111 (0.538)		同居×要介護ダミー	-0.268 (0.306)		-0.510 (0.518)	
近居	-0.402*** (0.124)		0.0825 (0.233)		準同居×要介護ダミー	-0.554 (0.471)		0.143 (0.722)	
夫方祖父母同居		-0.0478 (0.295)		0.103 (0.497)	近居×要介護ダミー	-0.165 (0.199)		-0.552 (0.379)	
妻方祖父母同居		0.135 (0.329)		0.00630 (0.557)	夫方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.200 (0.351)		-0.578 (0.569)
夫方祖父母準同居		-0.327 (0.312)		0.0491 (0.564)	妻方祖父母同居 ×要介護ダミー		-0.511 (0.542)		-0.205 (0.910)
妻方祖父母準同居		-0.0870 (1.007)		-0.565 (1.218)	夫方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-0.310 (0.608)		-0.328 (1.040)
夫方祖父母近居		-0.346** (0.148)		-0.250 (0.275)	妻方祖父母準同居 ×要介護ダミー		-2.038 (1.307)		0.801 (1.087)
妻方祖父母近居		-0.261* (0.148)		0.301 (0.285)	夫方祖父母近居 ×要介護ダミー		0.0275 (0.242)		-0.375 (0.440)
					妻方祖父母近居 ×要介護ダミー		-0.512* (0.292)		-1.081* (0.568)

<ワークエンゲージメント>

負に有意：準同居ダミー、近居ダミー、  
夫方近居ダミー、  
妻方近居ダミー、  
妻方近居ダミー×要介護ダミー

<仕事満足度>

負に有意：妻方近居ダミー×要介護ダミー

ワークエンゲージメントは準同居の場合と、  
近居の場合、どちらの親との近居において  
も、低くなりやすい。  
自分の親と近居の場合、祖父母が要介護  
であると、さらに低くなりやすい。

仕事満足度は、祖父母が要介護状態の場合  
には、自分の親との近居によって低くなり  
やすい。

# 推計3 まとめ

## 三世代生活の親世代の仕事への影響分析



- 同居や準同居によって労働パフォーマンスが低下しやすい。
- 同居や自分の親との近居によってワークエンゲージメントが低下しやすい。
- 近居によって仕事満足度が低下しやすい。
  
- 祖父母が要介護状態である場合には、配偶者の親との近居によって、労働パフォーマンスもワークエンゲージメントも低くなりやすい。
- 祖父母が要介護状態である場合に、三世代同居をしていることは親の仕事のウェルビーイングに悪影響を与えていない。



- 準同居や近居の場合に**本来の自分と近いパフォーマンスを出しやすいものの、ワークエンゲージメントは低下しやすく、**要介護状態の祖父母がいる場合、自分の親との近居によって**その影響が強まり、仕事満足度も低くなりやすい。**

# アジェンダ

1

背景・問題意識

2

先行研究

3

分析アプローチ

4

予備的分析・推計

5

おわりに

# 本研究の概要

## 問題意識

- ・ 三世代での暮らしがどのような目的で選択されているのか（介護が目的か否かなど）を考慮した研究が非常に少ない。
- ・ 三世代世帯による親世代のメリットについての研究は、**就業状況が中心**であり、他の効果についての研究が非常に少ない。  
（就業面においても、祖父母が父方か母方か、同居か近居かで効果が異なる）
- ・ 三世代世帯においても、**妻に家事の負担が偏っている**。



「日本家計パネル調査（JHPS／KHPS）」を用いて実証分析

【推計1】 居住形態の属性分析（多項ロジットモデル）

【推計2】 三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析（固定効果モデル）

【推計3】 三世代生活の親世代の仕事への影響分析（固定効果モデル）

# 推計結果概要【再掲】

## 【推計 1】世帯構成や居住スタイルの属性・要因分析

- ・ 介護を必要とする祖父母がいる家庭ほど同居を選択する
- ・ 夫婦共に正規雇用として働いている家庭ほど同居を選択する
- ・ 夫が大企業に勤めている家庭ほど同居、準同居、近居を選択しにくい  
→ 大学進学時や就職時に地元を離れ、核家族化しやすい可能性



# 推計結果概要【再掲】

## 【推計2】三世代生活の親世代の健康・生活満足度などへの影響分析



- ・自分の親との準同居の場合に**生活満足度が高くなりやすい**。
- ・近居、特に配偶者の親との近居の場合には**生活満足度が低くなりやすい**。
- ・準同居の場合に**メンタルヘルスが悪くなりやすい**。
- ・祖父母が要介護状態であることは**マイナスの影響**を与えることが多い。  
しかし、主観的健康状態については、要介護である場合、同居、特に配偶者の親との同居が**プラスの影響**を与えている。（←介護による規則正しい生活の影響？）



- ・近居の場合、**主観的健康状態は良くなりやすい**が、**生活満足度は低くなりやすい**。
- ・近居の中でも特に自分の親との近居の場合に**主観的健康状態が良くなりやすい**。
- ・祖父母が要介護である場合には、  
配偶者の親との準同居によって、**生活満足度が低くなりやすく**、  
配偶者の親との近居によって**メンタルヘルスが良くなりやすい**。

# 推計結果概要【再掲】

## 【推計3】三世代生活の親世代の仕事への影響分析



- 同居や準同居によって労働パフォーマンスが低下しやすい。
- 同居や自分の親との近居によってワークエンゲージメントが低下しやすい。
- 近居によって仕事満足度が低下しやすい。
  
- 祖父母が要介護状態である場合には、配偶者の親との近居によって、労働パフォーマンスもワークエンゲージメントも低くなりやすい。
- 祖父母が要介護状態である場合に、三世代同居をしていることは親の仕事のウェルビーイングに悪影響を与えていない。



- 準同居や近居の場合に**本来の自分と近いパフォーマンスを出しやすいものの、ワークエンゲージメントは低下しやすく、**要介護状態の祖父母がいる場合、自分の親との近居によって**その影響が強まり、仕事満足度も低くなりやすい。**

# まとめ



介護や育児のために三世代生活を選択しているが、親世代におけるウェルビーイングにはデメリットが大きい。準同居や近居の場合に介護が悪影響になりやすい。



- ・三世代での生活を支援する政策や、より柔軟な働き方、そのような状況がキャリアアップなどに不利にならないような制度や環境
- ・準同居や近居の家庭への介護支援

# 本研究の課題

○居住形態が健康・生活満足度、仕事に与える影響の分析（推計2、3）で、以下の内生性が生じる可能性を考慮した操作変数法を使用できなかった。

- ・親の健康状態が良好だから三世代生活ができる
- ・親の仕事が順調だから三世代生活ができる

○ウェルビーイング指標の調査期間が3年間と短いため、サンプルサイズが小さくなっている。

○3年間の間で居住形態を変更する家庭は非常に少なく、同一世帯の居住形態変更に伴うウェルビーイング指標の変化について十分に分析できていない。

○地方では家族従業者が多いことなどから三世代で生活する家庭が多いと考えられるが、住んでいる地域による違いを考慮できていない。

# 参考文献

## <論文、書籍>

- Kessler, Ronald C, Ames Minnie, Hymel Pamela. A, Loeppke Ronald, McKenas David. K, Richling, Dennis. E, Stang Paul E, and Ustun T. Bedirhan (2004). “Using the World Health Organization Health and Work Performance Questionnaire (HPQ) to evaluate the indirect workplace costs of illness”. *Journal of Occupational and Environmental Medicine*, 46(6), S23-37
- Mutchler, J.E. (2023). “Economic Resources Shaping Grandparent Responsibility Within Three-Generation Households”. *Journal of Family and Economic Issues* 2023, 44, pp.461-472 .
- Schaufeli, and Arnold Bakker (2004). “Utrecht Work Engagement Scale”. *Preliminary Manual*, 1(1), pp.1-60
- 安藤究 (2017) 「祖父母の親役割代替経験の認識と家族変動」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』15、17-39頁
- 大西美智恵・小野ツルコ・田中昭子 (1997) 「家族形態と高齢者の主観的幸福感との関係」『日本看護科学会誌』17(3)、76-77頁
- 齋藤慈子・野寄茉莉 (2017) 「3～5歳児を持つ親の育児におけるソーシャルサポート：母親の視点から」『武蔵野教育學論集』(1)、11-19頁
- 千年よしみ (2016) 「女性の就業と母親との近居—第2回・第5回全国家庭動向調査を用いた分析—」『人口問題研究 (J. of Population Problems) 』、72(2)、120-139頁
- 西本真弓・七條 弘 (2004) 「親と西の同居と介護が既婚女性の就業に及ぼす影響」『季刊家計経済研究』61、62-72頁
- 新田米子・志水暎子・小川裕子・神川康子 (2016) 「親子の居住距離が生活安心感・移住満足度に及ぼす影響—中部・北陸地方における親子の居住形態の動向 (その1) —」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』48、59-72頁

# 参考文献

- ・平井太規（2022）「祖父母による家事・育児動向の基礎的分析—3世代世帯家族を対象に一」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』10、115-127頁
- ・平河茉璃絵（2018）「祖父母による保育の利用可能性と保育所による保育の利用可能性が母親の就業に与える影響」『年金研究』10、53-67頁
- ・福田順・久本憲夫（2012）「女性の就労に与える母親の近居・同居の影響」『社会政策』4(1)、111-122頁
- ・不破麻紀子（2014）「世帯に見る家事分担」『社会科学研究』65(1)、51-70頁
- ・八重樫牧子・江草安彦・李永喜・小河孝則・渡邊子（2003）「祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響」『川崎医療福祉学会誌』13(2)、233-245頁
- ・兪崢（2015）「世帯構成が子どもの認知・非認知能力と教育投資に与える影響」『卒業論文集』

## <ウェブサイト>

- ・厚生労働省子ども家庭局保育「保険を取り巻く状況について」（最終閲覧日2024年12月14日）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000784219.pdf>
- ・こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ（令和5年4月1日）及び『新子育て安心プラン』集計結果」（最終閲覧日2024年12月14日）  
<https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/torimatome/r5>
- ・こども家庭庁「幼児教育・保育の無償化制度でよくあるご質問はこちら（1）」（最終閲覧日2024年12月14日）  
<https://www.cfa.go.jp/policies/kokoseido/mushouka/about/faq1>

# 参考文献

- ・株式会社 日本能率協会総合研究所 「厚生労働省委託事業令和4年度仕事と育児の両立等に関する実態把握のための調査研究事業」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/001085269.pdf>
- ・厚生労働省雇用環境・均等局職業生活両立課「仕事と育児・介護の両立に係る現状及び課題」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/001045156.pdf>
- ・国立社会保障・人口問題研究所 「第16回出生動向基本調査(夫婦調査)」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/001101627.pdf>
- ・厚生労働省「国民生活基礎調査」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>
- ・内閣府「令和3年版高齢社会白書」 (最終閲覧日2024年12月14日) [https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/pdf/1s1s\\_03.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/pdf/1s1s_03.pdf)
- ・厚生労働省「今後の仕事と育児・介護の両立支援に関する研究会(第1回)」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/001101627.pdf>
- ・厚生労働省 雇用環境・均等局 職業生活両立課「育児・介護休業法の改正について」 <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000851662.pdf>
- ・日本経済新聞(2023年11月13日)「共働き、保育・民間学童費に備え『隠れ待機』負担重く[会員限定記事]」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB0108B0R01C23A1000000/>
- ・日本経済新聞(2024年9月22日)「見えぬ『待機学童』、実態は1.7倍 基準変更で潜在化[会員限定記事]」 (最終閲覧日2024年12月14日) <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE168WG0W4A810C2000000/?type=my#cAAUAgaAMA>

ご清聴ありがとうございました！

